港北ニュータウンまちづくり動画資料

（文書編）

特定非営利活動法人港北ニュータウン記念協会

目　次

港北ニュータウン建設事業

１　港北ニュータウン計画 …… 1

（1）　ここに新しい街が …… 1

（2）　未来都市への挑戦 …… 7

２　土地区画整理事業 …… 13

（1）　故郷の生まれ変わるとき …… 13
　ア　故郷の生まれ変るとき …… 13
　イ　故郷の生まれ変るとき　～土地区画整理事業のあゆみ～ …… 17

（2）　港北ニュータウン計画 …… 21
　ア　造成工事の展開　～三つの配慮～ …… 21
　イ　新都市へのスタート …… 27

３　まちづくりの推進 …… 35

（1）　明日の都市をひらく …… 35

（2）　複合・多機能都市を目指す …… 41

（3）　21世紀の明日をひらく …… 47

（4）　共同化のすすめ …… 53

（5）　にぎわいのある街づくり …… 57

（6）　魅力ある街づくりをめざして　～港北ニュータウン・タウンセンター～ …… 61

（7）　港北ニュータウン建設事業・事業記録　～地権者は語る～ …… 69

（8）　都筑区の誕生 …… 79

（9）　生活対策協会設立15周年記念式典 …… 83

（10）横浜市営地下鉄4号線開通記念式典 …… 88

はじめに

当協会では、「港北ニュータウン建設事業関連」１６本、「ふるさと伝承記録集」９本の動画を保有しております。「ふるさと伝承記録集」について動画紹介の冊子は作成されておりましたが、「港北ニュータウン建設事業に関するもの」は作成されておりませんでした。そこでこのたび動画で紹介・解説されている内容を文書化し、冊子を作成いたしました。同時に「ふるさと伝承記録集」においても改訂を行いましたので、動画とあわせてご覧いただきたいと存じます。

なお、文書化にあたり、音声等の都合により一部省略したところもございますことをご了承ください。

平成２４年1月２７日

港北ニュータウン記念協会

港北ニュータウン建設事業

１　港北ニュータウン計画

（1）　ここに新しい街が

港北ニュータウン計画区域の開発前の地形、植物分布、土地利用そして人々の暮らしの歴史を説明しています。
（20 分 11 秒）

人口 240 万人、日本第３の町、私たちの横浜、この町を本当に誰もが住みたくなる町に都市の過密化を根本的に解決するために、横浜市は６つの大きな基幹事業を計画し、実施に移しています。その一つに横浜市の北西部、港北、緑の両区にまたがる広大な山野に将来 30 万人の人が住む理想的な横浜の副都心を作る計画があります。港北ニュータウン計画がそれです。

この映画（「ここに新しいまちが」）はこの港北ニュータウン計画の工事着工前の現状を記録として残すために制作されたものです。まず港北ニュータウンが計画されている地域をみてください。東京から 20 ㎞、横浜の中心地区からわずか 12 ㎞と住宅都市として理想的な位置にあります。そして広さも 2,530ha、横浜市の中区と西区をあわせた面積に匹敵する広大な山野です。

それでははじめにこの広大な地域の地形からみていきましょう。この図（港北ニュータウン地域の地形分類図）は港北ニュータウンの基礎調査に作られた地形分類図です。これによるとこの地域は大きく分けて西半分が多摩Ⅱ面、土橋面と呼ばれる多摩丘陵の末端部分、それに続く東半分の下末吉面、武蔵野面といわれる台地の部分、そしてこれらの地域に食い込むよう横たわる鶴見川、早

渕川による谷底平野と３つに分けることができます。

それぞれの特徴を空からみてみますと、例えば多摩Ⅱ面の代表的地形として、中川町、荏田町あたりの丘陵地帯は、地質学的には形成期が古いため谷が深く起伏の激しい地形になっています。横から見るとほとんど頂の面がほとんど標高 70mから 80mと同じ高さになっているので台地に見えますが、いたるところに谷が深く切り込みやせ尾根になっています。

それに比較してニュータウン地域の東側の下末吉面と呼ばれている台地、例えばこれは勝田団地の南側に広がる台地ですが、頂の部分が非常に平坦で典型的な台地を形成しています。ただこの台地に切り込んでいる斜面がどこも急な勾配になっていて、台地を区切っているのが特徴といえます。

そしてもう一つ谷底平野、ニュータウン地域を東西に横断する早渕川の大きな谷底平野、そして長い間に丘陵地帯に複雑に食い込んだ早渕川、鶴見川の支流の細長い谷底平野がたくさん見られます。

それでは次にニュータウン地域の植物の分布をみて、現在どのように土地が利用されているかを見ることにしましょう。

やや専門的になりますが、この図（港北ニュータウン地域の現存植生図）はニュータウン地域の基礎調査の中の現在植生図です。つまり現在ある植物を学問的に分類しその分布を色分けしたものです。.それではこの植生図から地域内の植物の主な現状と土地利用の実際を見てみますと、まず畑地、この図では茶色い部分がそうですが、台地の上や緩やかな傾斜地等によく整備された良質な畑地がいたるところに見られ、ニュータウン地域全体の 25.3%にも達しています。川沿いの谷底平野はほとんどが水田です。面積にして全体の 10.3%と畑地の半分以下ですが、ここに住む人々にとっては最も重要な生産手段の一つです。地域内の果樹園、大正年間、このあたりのスイカは有名でしたが、最近では傾斜地を利用した栗園が注目されてきました。緩やかな斜面ややしき林に見られる孟宗竹林、江戸の昔から中川のタケノコとして知られるようにこの一帯は竹林の多いところです。地域内に点在する杉や檜の植林地域、植林といってもその昔自給自足のために植えられたものといわれています。そして最後に雑木林、戦前までは木炭の原木として 15

年から25年ごとに伐採されていた地域で関東地方の典型的な２次林雑木林を形成しているコナラ林です。この雑木林に植林地域を加えたいわゆる山林は、このニュータウン地域全体の約半分 49.6%を占め、この地域に緑濃いすぐれた自然環境を醸し出しています。

こうしてニュータウン地域全体をみてきますと、横浜市の中心街からわずか10数キロしか離れていないところに50%もの山林を含めた純粋な農業地帯が息づいていたことに驚きすら感じます。

それではさらにこのニュータウン地域の理解を深めるために、この地域にはいつ頃からどんなふうに人々が生活をしていたのか、その歴史を簡単に振り返ってみることにしましょう。

なだらかな丘陵、そして緑濃い谷などが続く台地、まずこのニュータウン地域に最初に人間の足跡をみることができるのは遠く石器時代です。縄文時代の前期、今から 5,000 年ほど前、海は鶴見川や早渕川に大きく入り込んでいました。そのためこのあたり一帯は海の幸、山の幸が豊富で自然の風水害からも自らを守りやすいことなどから、たくさんの先人たちが日当たりのよい丘の上に住み着いていたことも知られています。

横浜市ではこれら先人たちの遺跡を調査するために、特に港北ニュータウン埋蔵文化財の調査団を組織して、現在までに予備調査220 カ所、本調査 70 カ所あまりの分布調査をやってきました。その結果、この地域の遺跡は大部分が紀元前 3, 000 年から 7,000 年前の縄文時代の早期、前期、中期のもので、このうち20基あまりの貝塚から牡蠣や蛤のような海の貝殻が出てきています。家々にはかまどがあり、集落の真ん中には広場があり立派なお墓の跡も発見されています。昭和30年発掘されて石器時代の村の跡として一躍有名になった南堀貝塚もその一つで竪穴式住居群と大きな貝塚が確認されています。

やがて稲作りの技術が伝えられ人々の生活は大きく変わります。海は沖へ後退し、鶴見川流域の沼地が水田として開拓され、不安定な狩猟生活から農耕を中心とした生活に変わっていったのです。こうして人々は古墳時代、飛鳥、奈良、平安と数千年、このあたり一帯の谷戸や沼地を舞台に農耕民族として定着

していきます。

やがて鎌倉に幕府が開かれて武士の勢力が強くなってくると、この静かな農村にも様々な変化が訪れます。人々は谷ごとに土地の豪族を中心に新しい農耕集団を作り外部勢力に対抗し始めます。この新しい共同体の心のよりどころになったのが、今でも地域内の数カ所に残っている杉山神社だと言われています。

戦国時代にはいってこのあたりは、武蔵国と相模国の接点として軍事的に極めて重要な位置にあったことから茅ヶ崎城が造られます。ニュータウン地域内の戦国時代のただ一つの史跡です。この城は室町時代の末期、南関東に北条市と上杉氏が激しく対峙していた頃、小田原の北条氏綱と小机城主の笠原氏が小机城の出城として造った丘陵城郭です。珍しくほぼ完全な姿で残っています。

そして江戸時代、幕府は天領であったこの地域に土着した地侍の中から名主を取り立てて農村支配を確立しようとしますが、現在残っている勝田町のこの家は当時の有力な名主の住宅です。

こうしてその時代とともに支配層に様々な変化がありましたが、一般民衆はいつもかなり苦しい生活をしていたようです。明治 35 年都筑郡中川村、現在の山田、大棚、茅ヶ崎、牛久保、勝田の地域ですが、この村勢報告をみますとこうちは山林の 50%、畑 30%、水田 20%と現在とほぼ同じ配分ですが、500 戸の農家のうち約半数が小作農家だったと記録されています。

荘園時代から武士に支配された鎌倉、室町、江戸時代とこうした苦しい一般民衆の心の支えとなったのはやはり信仰だったのでしょう。地域内のいたるところに残されている富士講、庚申講名残の石仏、ほとんど部落ごとに見られる小さな寺。邪心を払う仁王像が迎える北山田の長泉寺。彼岸花の咲き競う山寺大善寺。茅ヶ崎の谷戸の奥まったところに静かに佇む自性院。こうしたものが混然一体となって長い歴史の中に典型的な農村が形作られてきたのです。

荏田町にある心行寺に見られる小さな穴。これは今から数百年前、江戸時代の子供たちが草履を履いてままごと遊びの跡だと聞きました。やわらかい秋の日差しに遙か時間を超えて静かに庶民の生活がよみがえってきます。港北ニュータウン地域の東北部一帯の氏神山田神社の秋祭りです。かつては収穫を神に

感謝し最も大切な年中行事の一つだったのですが、今も平和なレクリエーションの一つとして賑わっています。

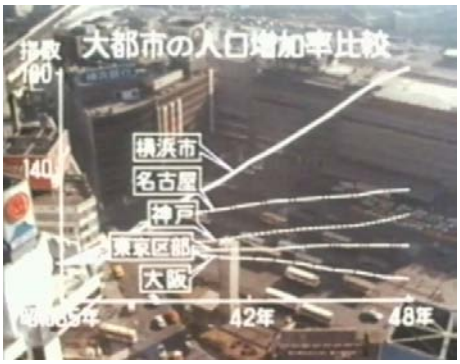
ところがこの数千年、変わることのなかった農業地帯に突然にかつてない決定的変革が訪れます。昭和 30 年代に始まった国の高度成長政策による都市化の波です。特に横浜市は首都圏膨張のあおりをまともに受けて、年間 10 万人という驚異的な人口増加にみまわれ、一度に都市問題が爆発します。ニュータウン地域も例外ではありません。いたるところに農地や山林が宅地に変わり、無計画な宅造が急速に進んでいったのです。そして一方では都市化の波は都市近郊の農業にも大きな影響を与えました。都市と農村の生産性の格差をますます広げ、もはや今までの農業は大きく変質せざるをえなくなってきました。昭和 45 年の調査ですでにこの地域内でも面積にして全体の 10%もの耕作を放棄した田畑があると報告されています。この二つの事実を重ねてみるともはやこのまま放置しておけば、この地域内全体がたちまちのうちに無秩序な市街地になってしまうことは火を見ることよりも明らかです。

横浜市は今全市をあげて大胆な改造に乗り出しています。国際港都建設計画の 6 大事業です。都心部の強化、再開発、大量輸送機関としての地下鉄網の建設、高速道路整備による交通戦争による挑戦、横浜の新しいシンボルベイブリッジの建設、そして今もう一つ最も困難な 300 万都市に向かって増大する人口を吸収する理想的な未来都市の建設にとりかかろうとしているのです。それが港北ニュータウン計画です。横浜市はこの奇跡的ともいえるほど緑の残された広大な山野を無秩序な乱開発から守り、まったく新しい視野にたった都市農業を確立させ、緑濃い、人間的な新しいまちをあらゆる英知を集めてつくろうと、ここに大きく歩を踏み出したのです。

（2） 未来都市への挑戦

港北ニュータウン計画の３つの基本理念と４つの基本方針および市民参加のまちづくりについて説明しています。
（23 分 52 秒）

国際都市横浜は港から目を覚まします。朝の横浜にはまだどことなく異国情緒が漂い静かな古き良き時代の面影をしのばせています。それが時計が 8 時をまわると町は一変します。昭和 30 年には 100 万人だった人口がわずか 10 年足らずで２倍の 200 万人を突破してしまったのです。当然のことながら色々の面でその影響がでてきます。交通の渋滞、都心部の過密化、郊外の乱開発による自然破壊、そして様々な社会施設の不足といわゆる都市問題の爆発です。



横浜市は早くから国の高度成長政策の結果、やがてこうした矛盾があらわれてくることを予期して、昭和 40 年２月、誰もが住みたくなるまちづくりを目標に次の６つの大事業を決定したのです。今急ピッチに進められているこれらの事業を、簡単にご説明しておきましょう。まず交通戦争による挑戦です。都心に集中する通勤・通学のための大量輸送機関として都心と郊外を有機的に結ぶ地下鉄網の建設。そして車に対しては積極的に大規模な高速道路網をつくって交通渋滞を解消させる作戦です。それに都心部を通り抜ける車をなくすため、港をひとまたぎするベイブリッジの計画が加わります。完成すればきっと港横浜の象徴としてあたらしいはまの名物になることでしょう。そして４番目、これら地下鉄や高速道路をかかえこむ横浜の心臓部をすっきりとした美しいものとするための都心部の再開発事業。５番目にこれらの再開発事業を本格的なものとするための金沢地先の海の埋め立て事業で

す。そして最後に都市問題の根源ともいえる激しい人口増加に対処するために、郊外の乱開発の防止と都市農業の確立をめざしてたてられたのが６番目の港北ニュータウンの計画なのです。

この港北ニュータウンが計画されている地域は市の中心部より北西およそ 12 km、港北、緑の２つの区にまたがる広さ 2，530ha の広大な地域です。この地域の周辺には東海道新幹線をはじめ３本の鉄道と２本の高速自動車道路がはしっています。また東側と南側は新しい内陸工業地帯になっています。そして港北ニュータウンが計画されている地域は、ほぼ東西を中心に流れる早渕川の低い谷底平野とその北と南に広がるなだらかな丘陵地帯がそれです。この地域には４万 5000 人の人々が住んでいますが、長い間交通が不便だったため、いわゆる都市化の波から取り残されていたのです。しかし今やこのままほうっておいたのでは無秩序な宅造で荒らされてしまうことはいうまでもありません。

そこで横浜市はこの広大な地域を乱開発からしっかり守り理想的な近代都市に造りかえようとしているのです。それではこの山野にどのようなまちがつくられようとしているのか、この大事業がどんなふうに具体化されていくのかなどについて、みなさんと一緒にみていくことにしましょう。

横浜市はまず港北ニュータウン建設事業を進めていく基本的な理念として次の３つのことを決めました。つまり１．乱開発の防止、２．都市農業の確立、そして３番目にこの大事業を進めていく方法として市民参加のまちづくりをあげています。具体的な開発計画は、まず日本住宅公団が土地区画整理方式で区画する公団第一、第二地区、すでに開発されている既開発地区、都市農業を確立する農業専用地区とその予定地区、そしてその他地区の４つに分け実際の事業が進められていくことになります。それではこれから公団の開発地区を中心に具体的にどんなまちが実現するのかをお話しすることにしましょう。

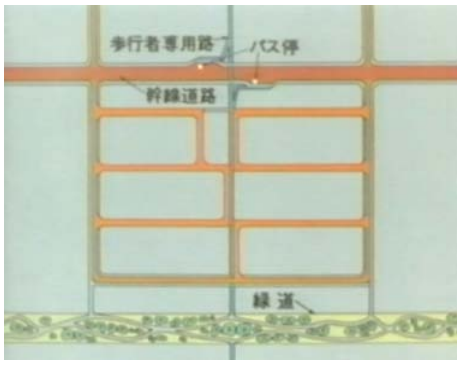
横浜市はまず具体的なまちづくりに４つの基本方針をきめました。

第一に緑の環境を最大限に保存するまちづくりです。この自然との調和は未来都市を考えるうえで第一の条件といわなければなりません。新しい緑地の造成もさることながらこの地区のすぐれた自然環境を生かして、むしろこの緑の

中に新しい都市を調和させていこうという考え方です。まずニュータウン全体の緑地の配置をみてください。19ha の広さをもつ総合公園。5 カ所の地区公園、13 カ所の近隣公園、そして全体の 77 カ所にも及ぶ児童公園といたるところに残る傾斜面の緑地。これらは緑の道、緑道と呼ばれる歩行者道路で結ばれニュータウン全体の緑地の骨格になります。これは完成予想模型の一部です。総合グランドをもつ地区公園の緑は現在の緑が上手に生かされ、近代的なまちの中に生まれ変わります。そしてそのそばをご自慢の緑道が伸びています。幅 10m から 30mの緑の帯が第一地区におよそ５km、第二地区におよそ８kmと自然の姿に応じて様々な形に工夫されニュータウンを縦貫しているのです。

第二はふるさとをしのばせるまちづくり。現代人が痛切に感じていることはふるさとの喪失感です。横浜市はこの地域にあたらしいまちができて、将来 30 万人の人々が住むようになっても、子供たちがカブトムシをとりトンボをおって幼い夢を育てられるようなふるさとを残そうと計画をしているのです。その具体的な計画として地域内の緑地の他に今あるお寺や神社は許される限り残すことにしています。港北ニュータウン計画が他の巨大団地の建設と根本的に違う点はここにもはっきり伺うことができます。きっとこれらのお寺や神社はニュータウンが完成したあかつきには子供たちにとってどんなに大きな安らぎと思い出を育てていくことかはかりしれないものがあるはずです。

基本方針の第三は安全なまちづくりです。最近自動車の激増によって都会に住む人々の安全はかなり脅かされています。これは人と車が同じ道を使っているからです。そこで港北ニュータウン計画では車の通る道と人の歩く道を完全に分け人間中心のまちづくりを最重点に考えました。すべての住宅地の中に用のない車が入らないように車の通る支線は幹線からコの字型にまわってまた元の道にでるようになっています。そしてその区画の中央を車道と交わることなく歩行者専用道路が通りバス停と結ばれます。コの字型の車の模型です。そして



歩行者専用道路は幹線を越えるときには立体交差になっています。こうして細かく配慮された道路網は自分の家から歩行者専用道路や緑道を通って学校、公園、ショッピングセンターをはじめバス停、そしてバスは駅へと安全に結ばれているのです。

第四は高い水準のサービスが得られるようなまちづくりです。緑の確保、安全な道路体系とともに未来都市にとってかかすことのできないものに行政や文化などあらゆる面で都市的、近代的なサービスが得られるようなまちにするということになります。港北ニュータウンも公団第一、第二地区のほぼ中央に計画された２つのセンターを中心に鉄道、道路をはじめあらゆる都市施設が考えられています。例えば学校教育施設一つをみても小中学校がなんと 39 校も新設されることになっているのです。その他行政管理施設として、総合庁舎や消防署、社会福祉施設として保育所、老人福祉センター。社会教育施設としては市民文化センター、図書館、医療施設の総合病院、広域施設として清掃工場が計画されています。

こうした施設が整った港北ニュータウンはただここに住む人々だけのものではなく、横浜市北部の中心として将来の横浜市全体の近代都市としての機能を強化するのにも役立つはずです。他の地域でどんどん進んでいる乱開発をよそにこうした理想的なまちづくりが進んでいるのは横浜市が計画発表以来、市民参加のまちづくりのシステムを徹底的に守り、地元の方々の大きな協力が得られたからといっても過言ではありません。

港北ニュータウンの計画が発表されてまもなく地元を中心として港北ニュータウン開発対策協議会がうまれたのもそのためなのです。この協議会は地元の様々な意見をニュータウン計画に反映させるのはもちろん生活対策、農業対策などあらゆる面で市や公団側と話し合い続けて、計画実現に努力してきているのです。それではここでこの対策協議会が発足し基本計画の策定の作業が開始されてからの主な計画の進み具合をみてみましょう。

昭和 43 年 44 年公団による用地買収のための説明会およそ 120 回開催、昭和

45 年基本構想確定、昭和 46 年この構想にもとづき住宅公団千分の一の基本設計図作成、昭和 47 年その設計図の説明会およそ 30 回、市の基本計画案、住宅公団の施行規程、事業計画案策定、昭和 48 年その説明会およそ 40 回開催。こうして昭和 42 年から 7 年間にわたる努力が実を結んで生まれた市の基本計画案が市議会議員や学識経験者からつくられている港北ニュータウン開発審議会に諮問され昭和 48 年 12 月にその結果が答申されて、いよいよ港北ニュータウン計画の基本が確定されたわけです。

昭和 47 年 10 月 30 日、港北ニュータウン開発地区の東南部に接するなだらかな畑地に記念すべき一つの竣工式が行われました。新羽、大熊農業専用地区の竣工式です。市長の言葉を借りるまでもなく大都市の農業の崩壊を目の前にしてこの港北ニュータウン計画では農耕地を積極的に生産緑地として育てるという全く新しい発想から農業専用地区を設定したのです。これは港北ニュータウン計画の大きな特色の一つでこれまで巨大開発にはいつも一方的に犠牲を強いられてきた都市の農業を都市機能を備えた生産緑地として位置づけ都市農業を確立しようとする新しい試みとして各方面から注目されています。すでにここ新羽、大熊地区では集団化、協業化、機械化が進められ新しい都市農業が大きな希望を持って動き出しているのです。計画ではすでに完成した新羽、大熊地区に続いて現在工事を実施中の都田第一地区、さらに予定地区として都田第二地区、大熊地区、牛久保地区があります。こうしてこれらの農専地区はやがてうまれる 30 万人の人が住むニュータウンに生鮮野菜を供給し安定した都市農業がうまれることでしょう。

農家の方々は、虫食いの開発は困る、横浜市が本腰を入れてきちんと都市計画でやってもらいたい、正直者が馬鹿をみないようにやってもらいたい、緑を多く残してもらいたい、農業も出来るようにしてもらいたい等々、様々な意見を述べられています。

これだけの大きなプランになると様々な意見があります。しかしどんな意見でも出されることが市民参加のまちづくりの基本であり、出発点なのです。

地域内に農業を営んでいる地元の方の話の映像

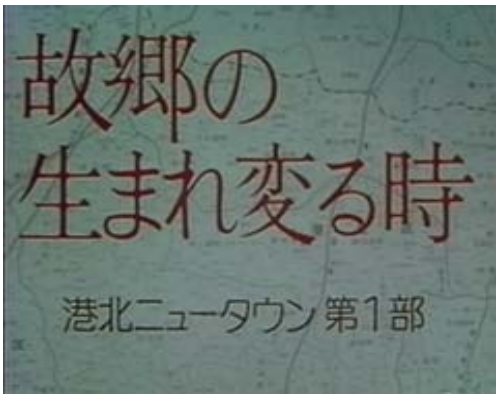
説明会の様子の映像

一言で地元の協力といっても現実には大変なことです。先祖伝来の農業の姿が根底から変わる不安、それにかわって生活事態も全面的に変えなければならない不安、そうしたものがこの巨大なプランが少しずつ進行していく中で溶け込み理解され周りの人と協力し合い互いに結びついて一つの力となっていく、ここに本当の市民参加の心があるのではないでしょうか。発足以来数百回にも及ぶ対策協議会、５年にわたりのべ 200 回にもわたる地元説明会、参加された方は１万人にもなっているのです。この他転用相談、生活相談、建設研究会などあらゆる角度から話し合いが進められ住民自らがこの未来都市建設への挑戦をしている姿は港北ニュータウン建設の最も注目しなければならない大切な部分といえるようです。こうして今関係者すべての英知が集められ新しい理想的なまちづくりが大きく動き出そうとしているのです。

２ 土地区画整理事業

（1） 故郷の生まれ変わるとき

ア 故郷の生まれ変るとき



横浜市の港北ニュータウン基本計画および公団の土地区画整理事業計画案の発表から土地区画整理審議会の設置までを説明しています。(26 分 31 秒)

港北地区事業計画等説明会のお知らせ

このたび港北ニュータウン全体についての市の基本計画ならびに公団の土地区画整理事業の事業計画案がまとまりましたので、計画や事業の進め方について地区説明会を開催いたします。この事業を円滑に進めるため、またまちづくりに積極的に参加していただくためご多忙中とは存じますがご出席くださいますようお願いいたします。

港北ニュータウンというのは横浜市が計画している新しい都市のことである。公団と横浜市はこの計画を理解してもらうためにニュータウンの予定地で何回となく説明会をひらいた。

この事業の前には実に種々雑多で膨大な量の問題が出される。

地元説明会の様子の映像

港北ニュータウンは横浜市の北西部約 12 km、東京の南西約 25 kmのところに建設される。予定の人口は 30 万、横浜市はここに一つの副都心をつくろうと計画しているのである。

ニュータウンの面積は 2,530ha、その大半を占める区域を公団は横浜市の依頼

で開発することになった。このあたりは低い丘陵の続く古くからの農村地帯である。なだらかな丘陵にはさまれた谷間には田畑が作られ農家が点在している。静かな田園風景が広がるこのあたりになぜ市街地を造るのか。実はこの十数年の間に無秩序な宅地化が押し寄せ谷は見る間に浸食されてきている。横浜市は乱開発に先んじてここに計画的な都市を造る必要を痛感したのである。新しい都市は３つの理念（乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加のまちづくり）をもとに考えられた。

この地域を調査した公団はニュータウンの建設を土地区画整理方式で行うことにした。市民参加のまちづくりをみてもこれはふさわしい方法である。ニュータウンの予定地は最近まで交通の便が悪く大都会の近くにありながらいまだに懐かしいふるさとといった感じの風景があちこちに残っていることである。

このあたりに人間が生活していた歴史は古い。約 9,000 年前といわれる縄文前期から古墳時代に至る遺跡が 500 カ所以上もあり、公団と横浜市の負担で発掘調査や保存の手が打たれている。丘があり谷がある。暮らしよいこのあたりには原始時代から人が住み続けてきたのである。この丘にやがてうまれる新しい都市、公団はこの都市を４つの原則（基本方針）をもとに設計した。それは緑を最大限に残す都市、ふるさとをしのばせる都市、安全な都市、高い水準のサービスがうけられる都市である。

交通計画の基本になるのは東京と横浜を結ぶ３本の地下鉄である。ついでこれは道路網の計画。人と車が分離されて安全な都市として設計されている。また駅とバス停の適切な配置によって車がなくても便利なまちになっている。これは学校と運動場。赤印は商業や公益施設のあるセンター、中央につくられるニュータウンセンターはこのニュータウンだけでなく広く横浜市北部の中心となるよう設計された。この緑は農業専用地区、農村地帯であったこの地域の性格をいかして都市の中に生産緑地をつくろうという横浜市の画期的な試みである。農業専用地区にニュータウンオープンスペースとしてまた防災上避難場所としての役割もある。緑は公園。黄色は集合住宅地。細い緑は緑の道。これらの部分には現存する緑が計画的に残される。緑の道は歩行者専用の道でお寺や

お宮、屋敷林、公園、集合住宅地の間を結んで続き、ふるさとをしのばせる都市の核となる。可能な限り理想的なまちを目指して基本計画は作られた。計画は建設大臣の認可があってはじめて具体化されるのだがその前に住民に公開され意見を述べる機会がつくられる。それは昭和48年10月であった。（建設省縦覧告示）

港北地区縦覧会場の様子の映像

土地は貴重な財産である。それだけにこの大規模な開発事業で自分の土地がどうなってしまうのか人々は不安になる。

インタビューによる
土地区画整理事業に対する意見を述べる映像

この事業に対する住民の受け止め方は様々である。

自分の土地が公園になる人は、自然を残すことは賛成であるが、換地に際し土地評価上は課題がある。土地の4割を買収され, 更に3割5分の減歩のうえ緑地へ換地されるのは絶対反対である。農業を続ける人は、宅地並み課税は困る。団地が出来ると耕作地の環境が悪くなるのが心配である。狭小宅地の方は、減歩されると建坪率に抵触してしまうので現状で良い。住職は檀家等のこともあるので寺やお墓は出来れば現在のままが良い。転職を考える人は不動産管理業など転職を考えていきたい。

こういう様々な問題を考え回答を見いだすために公団と横浜市と地元の三者でニュータウン建設研究会がつくられた。

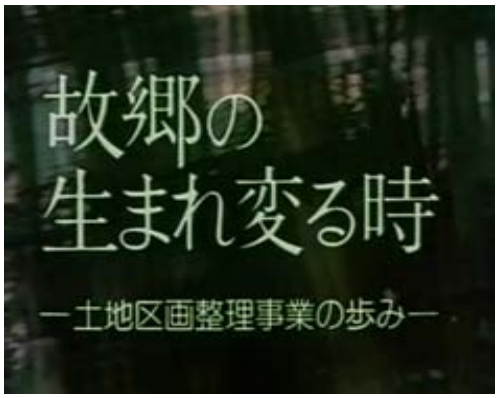
建設研究会の様子の映像

公団は人々の意見をできるだけ受け止め事業の中に位置づけようと努力している。

昭和 49 年 9 月港北ニュータウン開発対策協議会の総会が開かれた。挨拶する横浜飛鳥田市長。続いて公団の林本部長。対策協議会は横浜市が市民参加のまちづくりのために組織したものである。この日市長が語ったように港北ニュータウンの施行規程、事業計画に建設大臣の認可がおりた。横浜市がニュータウンの構想をもってから 9 年目であった。

昭和 50 年をむかえた。2 月 9 日の朝、公団の開発事務所のおもてには地権者の長い行列ができた。土地区画整理審議会の委員の選挙をするためである。審議会はニュータウン予定地の所有権者と借地権者がそれぞれ代表を選び、それに学識経験者が加わって構成される。審議会は換地計画や仮換地の指定といった地権者にとって最大の関心事を法律にのっとって公平に審議しなければならない。審議会の成立によって土地区画整理事業はようやく第一歩を踏み出す。地元の人々が慣れ親しんだふるさとは生まれ変わるときを迎えつつある。公団はこの事業にまつわる雑多で膨大な問題をきめ細かく公平に処理しながらニュータウン計画の実現にふみだしたのである。

イ 故郷の生まれ変るとき ～土地区画整理事業のあゆみ～



換地設計から仮換地指定そして造成工事、移転と事業の推移を説明しています。（30 分 21 秒）

昭和 51 年 2 月、港北ニュータウンの土地区画整理事業は換地設計方針の審議に入っていた。土地区画整理審議会は選挙で選ばれた権利者の代表と学識経験者からなり二つの地区でそれぞれ 30 名で構成されている。

この審議の中で特別な土地利用を図っていく必要な用地への換地は、ニュータウンの魅力あるまちづくりへ権利者の意向を反映させることとニュータウンでの生活対策の確立を図るため広く権利者の意向を聞くことになった。こうしてすべての権利者に特別な用地に関する申出調査票が郵送された。この申出調査は大勢の権利者の関心を呼び小学校、農協、公民館での説明会はどこも盛況を極めた。特別な用地とはセンター用地、アパートマンション用地、工場資材置き場用地、集合農業用地のことである。

説明会に引き続いて 3 月から 5 月にかけて個別の相談と申出の受付が行われた。日本住宅公団港北開発事務所には連日大勢の権利者が訪れた。特別な用地への換地は将来の生活設計につながるため細部にわたる相談が持ち込まれた。特別な用地への換地希望者たちは部門別会議を発足させ、換地の位置や方法を話し合い始めた。いわゆる住民参加によるまちづくりへのスタートである。地元農家の人たちはそれぞれの生活設計を考えていくつかの用地へ分散して換地への申出をしていた。

特別な用地に生活設計をかける人たちとは別に地区内に住むサラリーマンたちは開発に対する不安から土地を守ろうと宅地会を結成し独自の要求を掲げて

運動をしてきた。審議会で審議中の換地設計方針にはこうした要求に応える形で 165 ㎡以下の宅地には減歩をかけないこと、400 ㎡未満の宅地には減歩を緩和することが提示されていた。

工事の施工にあたり公団は緑の環境を最大限に保存する方針をとった。その一環として樹木の一部を整理後の緑地に利用するため移植が行われた。造成工事にあたっては大量の土砂の流出や洪水などによる災害を未然に防ぐため地区内に防災用のダムが造られた。第一地区と第二地区の間に流れる早渕川は横浜市によって流量を 2 倍にする改修工事が行われていた。この早渕川に雨水を流し込む公共下水道の整備もあわせて行われた。地区内を流れる柚の木川は暗渠排水路に改修された。造成工事にさきだち家屋移転を容易にするため、他の工事に先行して作られた造成地に公団は仮設住宅を建設した。

昭和 52 年 1 月柚の木川上流の牛宿では集落単位の移転が行われた。仮設住宅は換地先の数年間の住まいである。この牛宿には 10 数代も住み着いた古い農家が多い。移転した後の家屋はおのおの自分の手で解体しいずれ移転した先で再建されることになる。ニュータウン地区には竹林が多く昔から良質のタケノコを産出している。造成工事が進むとこのような風景はやがて見られなくなる。

部門別会議の中でセンター部会は計画を上回る申し込みのため、ブロックごとに権利者同士の話し合いが何回ももたれた。

話し合いの様子の映像

こうして権利者間の討議の結果、特別な用地の換地位置が決められた。一方審議会での換地設計方針の審議が終わり様々な権利者の意向を反映した換地設計基準が確定した。神社、仏閣、墓地などはふるさとをしのばせるまちづくりを実現するため換地設計において特に配慮されることになった。また建物の移転を避ける区域が設けられ、そこでは換地設計上従前の宅地の形状を考慮して定められることになった。

申出調査の結果と換地設計基準、それに土地の評価に基づいて公団は換地原案の作成にとりかかった。換地設計は評価員の意見を聞いた土地評価などに基づいて行われる。それは整理前の土地の評価と整理後の土地の評価がおのおの照応する形で土地の位置が公平に決められる。おのおのの換

地は道路に面しており標準的に奥行きを一定にした街区の中で間口を変えることで面積が調整される。こうしてできた換地原案によって換地設計図ができあがった。そして事業を円滑に推進するため、この換地原案について直接権利者の意見を聞く仮換地の供覧が準備された。筆数にして 2 万 1000 筆にも及ぶ仮換地図が用意され供覧日の案内状とともにすべての権利者に郵送される。事業認可の日から数えて実に 3 年目の秋である。総合公園の一部として保存地区に組み込まれた茅ヶ崎の杉山神社。供覧の知らせをうけて伝統の祭り囃子の保存にも一段と力が入る。

昭和 52 年 10 月、第二地区から仮換地の供覧が開始された。控え室には早くから大勢の人が姿をみせ地図や模型を手がかりに自分の土地の位置を確かめる。供覧には九州や北海道からやってきた権利者もいた。こうして仮換地の供覧には 4 ヶ月が費やされ供覧に訪れた権利者の数はおよそ 5,000 人にものぼった。

特別な用地に換地が決まった人の中には転業や廃業を決意した人たちが少なくない。（その方の映像）ニュータウンで農業を続ける決意の人たちは集合農業用地に希望の土地をまとめて換地を決めることができた。（その方の映像）また工場倉庫用地への換地が決まった人の中にはこの機会に規模の拡大を計画している人もいた。（その方の映像）一方移転を避ける区域として換地上、宅地の形状が現状のままで残ることになった地区の人たちもいた。（その方々の映像）

供覧の結果提出された意見書に基づいて換地原案の修正が行われた。換地の位置や形状、のりめんの勾配、宅ばんの高さなどについて出された意見も一つ一つ丁寧に検討してできる限り原案の修正を行った。そしてその結果は再供覧の場で直接話し合いをもって解決する方法がとられた。再供覧は何回も繰り返し行われ権利者が納得いくまで辛抱強く続けられた。

供覧、再供覧を続けている間にも造成工事は休みなく続けられた。一次造成工事は起伏が多いため大量な土砂の移動が必要である。そのため大型土木機械が使われた。一次造成から二次成まで少なく見積もっても 4 年はかかるのである。

土地区画整理事業において工事を行うにはまず土地を借りなければならない。

借地のための補償交渉を進めるため工区ごとに工事計画と補償についての説明会が開かれた。借地には建物や物件、植木などの移転も伴う。10 数代と住み着いた古い家が多いだけに建物などの補償交渉は難航し、担当者は何度も足を運んだ。こうして工事のための家屋移転が進行する。中川地区では早渕川の改修事業のため川沿いにある古い農家が取り壊された。

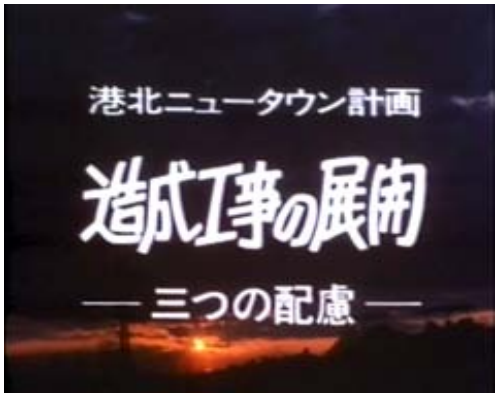
昭和 54 年 3 月港北ニュータウン事業推進連絡協議会でかねてから懸案であった造成工事スケジュールの発表が行われた。この協議会は 51 年 10 月事業の推進を目的として従来からあった対策協を組織替えし地元住民、横浜市公団三者で発足したものである。

この造成工事スケジュールは公団が横浜市と協議のうえ、権利者に対して施工者としての公団の責任を明確にしたものであり、この発表は港北ニュータウンの土地区画整理事業をより前進させるための大きな転機になったのである。造成工事の進展に伴いあちこちに公団の仮設住宅が建ってきた。荏田地区の渋沢でも大規模な集団移転が行われた。家屋を取り壊して遠く地区外に移転した人もいる。仮設住宅に移植しきれない植木は別な場所に移植して管理される。こうして仮設住宅での新しい生活が始まる。

昭和 54 年 4 月北山田地区で直接移転を完了した人たちにこの事業最初の仮換地指定の通知が行われた。これにより土地の使用収益が正式に開始された。この時期にニュータウンの将来の姿をかたどった緑道の一部が完成した。これはニュータウンの様々なオープンスペースを有機的につなぐためのものであり、せせらぎの水とともに緑の空間を形作る。計画人口 30 万人、横浜市北部の副都心を目指す港北ニュータウンの新しいまちづくりはようやく本格的な段階にはいった。この事業は多くの人たちの暮らしや生活を中断し、大量の樹木の移植、家屋の移転や取り壊しを伴う。それだけに土地を持つ人たちの積極的な同意と協力がなくてはできない。この事業を完成させることは施工者にとっても新しい土地区画整理事業を切り開くための大きな試金石となるのである。対象面積 1,317ha、移転家屋およそ 1,300 戸、動かす土の量は 3,500 万㎥、かつてない大規模な造成工事がここに展開されるのである。

（2） 港北ニュータウン計画

ア 造成工事の展開 ～三つの配慮～



港北ニュータウン建設の基本方針をふまえ３つの配慮のもとに進められる造成工事の内容を説明しています。(21 分 21 秒)

昭和 50 年７月長かった梅雨も明け、やがて暑い夏がやってこようとする頃、横浜市の港北区と緑区にまたがる広大な丘陵地帯に大がかりな造成工事が始められていた。この造成工事は昭和 40 年横浜市が誰でも住みたくなるまちづくりのための６大事業の一つとして構想を発表した港北ニュータウン計画の造成工事なのである。

構想発表以来、数え切れないほど大勢の人々の意志を練り合わせ、理想的なニュータウンの誕生を目指して 10 年、今ここに本格的な造成工事が始まったのである。この港北ニュータウンの予定されている地域は横浜・東京の都心からそれぞれ 10 数kmという理想的な位置にある広大な丘陵地帯である。総面積 2,530ha、横浜市西区のおよそ４倍の広さを持つ丘陵地帯である。

この理想的な立地条件を持つ大地に横浜市がいち早く乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加のまちづくりの理念の元に人口 30 万人の新しい都市をつくろうというのがこの港北ニュータウン計画の基本構想だ。この計画のうち開発の大部分を占める日本住宅公団が行う土地区画整理事業が昭和 49 年８月建設大臣から正式に認可された。それによるとこの地域のほぼ中央を流れる早渕川をはさんで南北にそれぞれ第一地区、第二地区の合計 1,316ha が設定され工事が開始されることになったのである。

造成工事の第一段階は造成予定地の木を切り根を掘り起こした後、表面の土

をはぎとることから始まる。続いて造成工事は最もダイナミックな大量な土の移動に移る。高い丘の土を削り低い谷戸の部分への移動である。それには最近の土木技術の革新による大型の土木機械が縦横に活躍する。最近の大型造成工事の現場でよく見られる戦車のようなスクレープドーザー。自力で大量の土を抱え込み目的地まで走る。その場でその土をはき出す。なかなかの重量感である。このスクレープドーザーは比較的近いところへ土を運ぶときに使い、およそ 200m以上の距離になるとさらに大型のキャリーオールスクレーパーが登場する。このキャリーオールスクレーパーは、土を抱え込む部分とそれを引っ張る部分が分かれていて、１回に 30ｔ以上の土を運ぶことができるジャンボマシーン。スクレープドーザーとともに新しい造成工事の主役だ。そして最もオーソドックスな大型ブルドーザー。体は小さいが力の強い働き者だ。こうした各種の新鋭大型土木機械によって現場は日一日とその姿を変えていく。この第二地区の第五工区では最盛期にはキャリーオールスクレーパーが 12 台、スクレープドーザーが６台、20ｔから 30ｔ級の大型ブルドーザーが６台投入され、戦場のような活気がみなぎっていた。

こうした造成工事は今や首都圏やその周辺部ではそう珍しい風景ではなくなった。しかしこの港北ニュータウンの場合、一歩立ち入ってみるとそこには他の造成工事とは違う様々な面を見ることができるのである。

つまりこの港北ニュータウン計画の造成工事はニュータウン建設の基本方針をふまえて３つの大きな配慮、緑への配慮、安全への配慮、そして古いものへの配慮がはじめから厳しくそして大胆に推し進められているということだ。例えば、この造成工事現場のすぐ横を走る工事用道路を東におよそ 400mほどいったところに仮植地とよばれる人口の林がある。この美しい林は、港北ニュータウン建設の基本方針の一つ、緑の環境を最大限に保存するまちづくりをうけて打ち出された第一の配慮、緑への配慮の一つのあらわれだ。造成工事に先立って行われる伐採の時、その中の美しい木を選んでいったんここへ移して１本

１本大切に育てているのである。そして将来この大地に生まれる新しいまちにゆとりと潤いを与える緑、公園、緑道、街路樹などの木として再び登場するのもそう遠くはないはずである。こうして緑を工事の展開の中で自然から与えられた貴重なみんなの財産として大切に育てる心は、新しい時代の造成工事にはどうしても必要なそして最も大切な配慮の一つであることは言うまでもない。

さらにこの人工林から先ほどの工事用道路を東へ300mほど走ると、今度は小さなダムの上に到着する。これが第二の配慮、安全への配慮の最も大きな柱である防災ダムなのである。このダムはこの工事用道路とともにニュータウン地域でははじめてつくられた防災ダム14号である。この他ニュータウン予定地内では既に完成しているものに第一地区の西北部、すみれが丘に近いところにある防災ダム９号。そこから西南へ１㎞ほどいった牛久保の電波塔の近くにある防災ダム10号。そして現在建設中のものに第二地区の西南部、横浜市水道局の港北配水池のそばにつくられている防災ダム18号。ニュータウン地域では最大の防災ダム１号。

こうして造成工事に先立って各所に造られている多くの防災ダムがどんな役目を果たすのか、図を見ていただくことにしよう。開発されていない自然林そのままの場合、雨が降っても木、下草そして大地自身が雨水を受け止める役目を果たしてくれ、それが木を切り土を削って開発が進められるとそうした雨水を受け止めるものが少なくなり、雨が降ると土砂が流れ出していわゆる鉄砲水や崖崩れなどの被害をもたらす。これをがっちり防ごうというのがこの防災ダムなのである。この防災ダムは、長い間の降雨量をもとに30年に一度という記録的な豪雨にも耐えられるように設計されているのである。

それでは完成間近の１号ダムでその役割と構造をみていただこう。この１号ダムの流域面積は、第二地区の西の端川和高校の北に広がる第一工区とその周辺およそ140haである。この大きな地域に１時間におよそ90㎜という大雨が降ってもその水と泥を受け止めることができる大きなダム。これがこの防災ダムの主体である。このダムの高さは12m、土の量は６万㎥、およそ横浜市の本庁舎の７階までの量と同じである。その大きさがわかるだろう。そして普段この

谷戸を流れる水は、この集水塔に集められ調節しながら排水される。またダムの一角には、大増水の時にあふれる水を横から流すための余水わけもあらかじめ設けられる。

こうして港北ニュータウンの建設は、すべての工区で集中豪雨などによる被害を事前に防ぐ対策を講じなければ本格的な造成工事に着手しない、という厳しい方針で工事が進められているのである。また盛り土された造成地や道路の建設によって生まれる傾斜面の土砂崩れの防止も厳重に管理されている。例えばこれはネトロンシートと呼ばれるビニールの網を使って斜面の崩れを防ぐ方法、土砂の流出の原因の一つである地下水を導き出すためのパイプの活用。斜面に芝の種を吹き付けて植物の力で斜面の崩壊を防ごうという方法など、それぞれの現場できめの細かい災害防止のための対策が講じられている。その他ニュータウン建設予定地内はもちろん、周辺の人々の生活にもこの大きな建設工事の影響。例えば交通事故、騒音、振動などの被害をできるだけ少なくするため、そして工事自身も安全に展開するように各所に造成工事に先立って工事用道路が建設されている。こうしてつくられた防災ダムや工事用道路などの施設は、造成工事が進み新しい都市が造られていく中で、安全な都市のシステムと徐々に交代してやがてその役目を果たし姿を消していくことになるはずだ。いわばこれらの安全対策は、数年にまたがる造成工事の間の様々な災害をがっちりと食い止めようと言うことでつくられたもので、ニュータウン建設工事がいかに安全のために大きな配慮をしているかを伺うことができる。

最後に港北ニュータウンの工事を進めていく上の三つ目の配慮として、基本方針のふるさとをしのばせるまちづくりにつながる古いものへの配慮がある。ニュータウン地域内の埋蔵文化財の発掘調査にその一端をのぞいてみよう。この埋蔵文化財の発掘調査は、すでに昭和 45 年から港北ニュータウン埋蔵文化財調査団の手によって進められ、学会にも多くの話題を提供している。

港北ニュータウン埋蔵文化財の特徴についての話。

一つ目は 2，300ha の中に約 600 カ所近い遺跡があると言うことで非常に遺跡分布密度の高いところであること。二つ目は一番古い 9,000 年前後の昔のもの

で縄文時代のものから新しいところでは古墳時代まででていること、その間時間的にずっと連なった遺跡が存在すること。今までの調査の成果から見て端的に言うと弥生環濠集落と墓地、それから縄文時代の後期から晩期にかけての集落の全貌がとらえられていること、また古墳時代の早渕川の奥まったところに集落の存在を確認したこと。普通今までのニュータウン建設というのは従来工事に入ってからとやかく問題にしているような。文化財を大切にしようというのを一番最初の計画の段階でやはり大きな３つのふるさとをしのぶまちづくりというのを受けている文化財の調査計画をその中に織り込まれているという点は大きな特徴である。

また昭和 50 年の夏、古いものへの配慮のもう一本の柱、民俗調査が港北区北山田の谷戸に港北ニュータウン歴史民俗調査団の手で進められていた。これは港北ニュータウンの建設が進められる中で、そこに営まれてきた数百年の生活の足跡をなるべくありのままの姿でとらえ、失われていくふるさとの別の面から記録にとどめようということで、昭和 49 年から横浜市と地元開発対策協議会、住宅公団、北農協が協力して実施している調査なのである。

住民からの聞き取りや古文書の調査の映像

こうして駒澤大学の加藤晋平先生を中心に進められている調査の資料はやがて編集することになっている地元の郷土史の多くのページを飾ることになるはずである。

旧盆の８月 17 日の夜、港北ニュータウン地域のほぼ真ん中、港北区茅ヶ崎町の茅ヶ崎城址の一角にある観音堂の境内で盆踊りの輪が広がっていた。この茅ヶ崎城址はニュータウン計画ではそのままの姿で残されることが決まっている地域だ。いや、残るのはこの森や社だけではない。きっとこの熱っぽい踊りの輪も、毎年この森に繰り広げられていくはずだ。

というのはこの港北ニュータウン計画は、はじめからこの予定地内に住む数万人の人々の生活を最も大切に考えて計画されたもので、地元地権者などそこに住む人々は横浜市や住宅公団などと新しいまちづくりを一緒になってやるのだ。そしてそのために土地の利用の仕方を新しい時代の都市にふさわしく変え

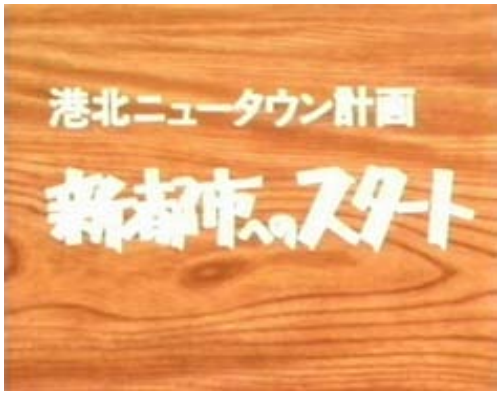
ていこうとこういう考え方、つまり土地区画整理事業方式で進められているのである。ある人はこのニュータウンの一角に新しくつくられた農業専用地区で都市農業を経営するかもしれない。またある人は新しく生まれるまちの中で新しい生活設計に基づいて生まれ変わるかもしれない。共同で会社を作って新しいまちを支える集団として登場する計画もあるときく。つまりここに住む人々は姿を変え、形を変えて新しい時代をここで生きていくのである。その確かさと大きな未来が踊る人々の表情の中に読み取ることができると思うのは思い過ごしだろうか。

こうしてようやく大きく動き出したニュータウン建設は大自然しかつくり得ない緑に対する配慮、造成工事中の災害絶滅の意気込みをみせる安全に対する配慮、そしてふるさとをしのばせる有形無形の文化財に対する配慮など、新しい造成工事にふさわしいいわば港北ニュータウン方式ともいうべき新方式を編みだし、それを強力に実施にうつしているのである。

これはいうまでもなく計画を推進する横浜市、工事の施工者である日本住宅公団、そしてなによりも地元関係者との間に設けられた太いパイプ、港北ニュータウン開発対策協議会をはじめ建設研究会、建設安全管理連絡協議会など様々な形で行われている徹底的な話し合いによる統一された意思のあることを忘れてはならない。これはいうまでもなく港北ニュータウン計画の理念の一つである市民参加のまちづくりをそのまま活かした姿なのである。

昭和 50 年 12 月、防災ダム 1 号が完成した。横浜市と日本住宅公団の厳重な検査が終わるとこの第一工区では満を持していた技術者と大型土木機械は一斉に始動、本格的な造成工事が大きく展開しようとしていた。

イ 新都市へのスタート



港北ニュータウン建設事業に先駆けて実施する横浜市関連事業について説明しています。(23 分 27 秒)

昭和 49 年 12 月 16 日午前９時 15 分、横浜市港北区勝田町のある産院に一人の女の赤ちゃんが生まれました。おめでたい、そしてほほえましい風景ですが別に珍しいことではありません。しかしこれはご両親を始め赤ちゃんの誕生を祝福する周囲の人々にとっては、まさに地球より重いかけがえのない命であり、これから何十年どんな娘に成長しどんな人生を送るのか、無限の可能性を秘めたすばらしい生命なのです。

ちょうどその頃、緑区のとある小高い丘にかなり大がかりな造成工事が始められていました。これも今では日本中どこにでも見ることのできるごくありふれた風景です。しかしこの工事こそ横浜市が昭和 40 年誰でも住みたくなるまちづくりを目指して発表した６大事業の一つ、港北ニュータウン建設事業がいよいよ本格的に動き出した姿なのです。構想発表以来、開発対策協議会、住宅公団、そして横浜市の三者が一体となって数え切れない人々の英知を集めて練り上げてきたプランがこの大地の上に投下された、まさに記念すべき瞬間なのです。

工事はまず巨大なニュータウンの本格的宅地造成に先駆けて、防災ダムと工事用の道路の建設から始められました。

すでに横浜市が昭和 49 年７月、すべての基本となる港北ニュータウン基本計画を決定したのに続いて、開発の大部分を受け持つ住宅公団でも 49 年８月末、建設大臣から土地区画整理事業の認可を得て、いよいよ本格的な宅地造成工事がスタートすることになったのです。

横浜市長の話。

このときに当たり私は本ニュータウン建設事業に対して新たなる決意を感ずるのであります。最大の努力をいたしたいと考えている次第でございます。本事業を実施するにあたりましては地元の皆さん方の絶大なるご協力をお願いいたしますとともに、本市におきましても関連いたします道路、河川、下水道の諸事業を始め、農業専用地区、文化財調査、地元生活対策という点について万全を期さなければなりませんし努力をいたす所存でございます。

こうしてこの事業は地元の人々を代表する開発対策協議会の精力的な活動、住宅公団の周到な準備、そして市民参加を理念とする横浜市との努力が相まって一歩一歩階段を上り詰めるように進められてきたのです。

そこで今日は港北ニュータウン建設という大事業のスタートをこれに先駆けて、すでに市が実施している関連事業の進展を中心にみていただこうというわけです。

港北ニュータウン建設事業の基礎理念の一つに都市農業の確立があります。これは、これまでの巨大団地の開発にはいつも一方的に犠牲を強いられてきた都市近郊の農業を、港北ニュータウン建設という大計画の中に生産緑地として積極的に組み入れ、開発と緑の保全を調和させようという新しい発想から生まれた一つの大きな関連事業です。ここ新羽大熊の農業専用地区は、すでに昭和 47 年に完成し都市農業のパイオニアとして目を見張らせる発展を示しています。都市農業のモデルケースとして各方面から注目されているのもそのためです。建設当時から理事長として苦労してこられましたあきもとさんに当時の模様をお聞きしました。

あきもとさんの話。

当時は図面を見せられてもどのようになるのかよくわかりませんでした。最初は農業専用地区に入る希望者の方も少なかったです。昭和 45 年に工事がはじまりましたが、立派な農地ができるのかできないのか心配でした。大きい工事にもかかわらず一人も犠牲者もなく完成してよかったです。

新羽大熊地区に続いて現在急ピッチで工事が進められているのは、公団第二地区の南側にぴったり接している池辺の農業専用地区です。やがてできあがったこの農地の向こうに白い高層住宅ビルがのぞき、広々とした生産緑地には農業を安心して継続できる喜びを秘めた農家の方々の姿が見られるのもそう遠くはないはずです。すでに未来都市の建設ははじまっているのです。

昭和 49 年 10 月 29 日、大倉山にほど近い鶴見川のほとりに横浜市の港北下水処理場の竣工式が行われました。昭和 43 年から工事にかかり、現在その第一期工事とも言うべき 1 系列、14 万 7000 人分の下水を処理できる施設が完成したのです。計画が全部完成すると今の 6 倍、6 系列 88 万 5000 人分の下水処理が可能になるという大処理場です。もちろん将来港北ニュータウン 30 万人の大部分の下水処理はここで行われることになるはずです。これからの都市にとって最も重要な課題、快適な生活環境の整備、文化的生活の確保、その基本ともいえる下水処理システムを横浜市はニュータウン本工事着工にはるかに先行して実施に移していたのです。コンピュータを導入した近代的な施設で処理された大量の下水は、魚の住めるようなきれいな水になって鶴見川へ放流されます。自然を自分たちの手で取り戻す努力はこんなところにも強力に実施されているのです。

その鶴見川を挟んだちょうど向かい側に現在工事中の新羽ポンプ場があります。このポンプ場は毎秒 58 トンの下水を受け入れて、まず砂や沈みやすいものを沈殿させ大きなゴミをとって雨水、つまり雨水は直接鶴見川へ、汚水は向かい側の下水処理場へ強力なポンプで送り込むためのもので東洋一の規模を誇っています。この新羽ポンプ場には 3 つの下水道幹川が入ることになっていますが、そのう

ちの一つがすでに工事に入りました。この下水道幹川は直径５ｍ、地下鉄並みな大きさで着々と掘り進んでいます。こうして下水処理場の拡張と併せて人目のつかない鶴見川の川縁や地下 10ｍの坑内で工事が進められているのです。

また現在工事の真っ最中である緑下水処理場では、ニュータウンの一部の区域を処理することになっています。この緑下水処理場も完成時には 85 万 2000 人分の下水処理ができることになります。新しい都市の誕生で汚水処理と同時に忘れてはならないものに雨水の処理があります。大規模な宅地の開発は自然のままの場合と比較すると、そこに降る雨が近くの溝に集まり川へ流れ出るまでの増水の量と増水するまでの時間に大きな変化をもたらします。

これをわかりやすくするために次の絵を見ていただきますと、自然の山野に降った雨は無数の木や草、そして大地自身が一つの巨大なスポンジのような役目を果たして雨水を受け止めますが、いったん開発されますと降った雨は直接川へ流れ込んで増水します。巨大開発にはこの雨水対策は最も重要な秘策の一つであることがわかります。

この港北ニュータウン建設事業の場合も全く同じことがいえます。そこで横浜市はまずニュータウン誕生により最も大きな影響を受けると考えられる鶴見川の支流、早渕川と大熊川をすでに昭和 45 年から延べ 10 ㎞あまりの本格的河川改修工事にかかっています。早渕川のすでに改修工事を終えた区間です。将来は港北ニュータウンの真ん中を貫通する主要河川としてその偉容を誇っています。こうしてすでに港北ニュータウン建設という大事業はその関連事業の重要な部分を占める河川の改修工事、下水処理機構の建設でかなりの進展を見せています。これはその計画図です。

そしてもう一つのニュータウンの基幹施設整備プランに道路と鉄道があります。このうち道路についてみますとニュータウン地域内はこれからの本工事の中に新しい道路体系が理想的な形で作られていくはずですが、問題はその地域の周辺部と有機的に結ばれる関連道路の建設です。例えば今そのうちの最も重要視されている新横浜元石川線の場合をのぞいてみますと、この新横浜元石川線はニュータウン地域と第三京浜の港北インターチェンジ、新幹線の新横浜駅、さらに横浜の中心部

を有機的に結ぶ大動脈です。この動脈の建設は、すでに昭和４８年に事業認可になり、困難を極めた土地の買収もその大半を終え、やがてここに幅 25～32m、およそ 10 ㎞の幹線道路が登場するはずです。もう一部では家屋や工場の移転もはじまり、新しいまちと都心を結ぶ動脈づくりはいよいよ本格的に動き出そうとしています。

また 49 年の暮れも押し迫った 12 月のある日、開発地区内の一部では造成のための移転家屋の取り壊しも始まりました。かたださんのお宅もその一軒で、すでに仮住宅に移転されています。世紀の大事業と言われるニュータウンの工事にしても、こうした人々の心からの協力がなければ一歩も進まないのです。港北ニュータウン着工に時をあわせて生まれた赤ちゃんが昭和の和をとってかずよちゃんと名付けられました。暮れも押し迫った頃かずよちゃんはご両親の待つ実家へ帰りました。かずよちゃんのお家、いちかわさんのお宅は古くから北山田で農業をやってこられたのですが、将来の生活のことも考え今では電気屋さんを営んでおられます。やがてかずよちゃんが小学校へ入学される頃にはこのあたり一帯は近代都市として見違えるようになることでしょう。

こうして横浜市は昭和 40 年港北ニュータウン構想発表以来、市の西北部の中核都市として理想的な近代都市を実現させるために公団の造成工事に先駆けて関連都市施設の工事を早くから実施に移していたのです。つまり下水処理システムの建設、雨水処理のための河川の改修、未来都市の動脈としての関連道路の建設、そしてこのニュータウン計画の中ではじめて試みられる都市農業確立のための農業専用地区の設定などです。公団開発地区 1,316ｈａを含めたニュータウン全域の面積は 2,530ｈａ、西区の４倍の広さをもっています。この広大な地域に乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加のまちづくりの基礎理念のもとに計画人口 30 万人の未来都市への建設が今こうした関連事業の進展に支えられながら着実にそしてダイナミックに大きくその第一歩を踏み出したわけです。

昭和 50 年の正月、造成工事の主役、大型土木機械がやがてはじまる本格工事の第一年目の春をまつように、大地の上に静かな正月を迎えています。

港北ニュータウン地域のほぼ真ん中、早渕川北側の丘の上にＣ７、Ｃ８と呼ばれている弥生時代の部落の跡が発掘されています。港北ニュータウン地域内にはこうした遺跡が数多くあると言われていますが、横浜市ではこれらの貴重な遺跡を造成工事に先立って発掘調査をして記録に残し、特に重要なものは現況保存するよう方針を立て昭和 45 年から調査を始めています。

生まれてから半月が過ぎたいちかわさんの赤ちゃん。かずよちゃんはご両親を始めおじいちゃん、おばあちゃんなどに囲まれ、はじめてのお正月を迎えご機嫌です。また前の年の暮れニュータウン地域内にあった我が家を取り壊したかたださん一家はすみれが丘団地にある仮住宅でお正月を過ごしています。やがてニュータウンの新しい住民になるかたださんは今の心境をこう語っています。

かたださんの話。

一人一人の個人的なエゴを通すということもあまりいいことではありませんし、決められた計画ですし新しいまちづくりということで一人一人が協力するという立場できた次第です。ただ新しいまちづくりをするからには緑の多い自然と調和されたまちづくりをしていただければ、とそのように我々は動いた価値があるしまた後に来る人も安心して来られるのではないかと思います。

立春も過ぎ本格的な工事があちこちで動き出した２月９日、荏田町の住宅公団港北開発事務所で土地区画整理審議会委員の選挙が行われました。土地区画整理事業は建設大臣の事業認可を得たことで事実上スタートしたわけですが、事業の進展とともにまずやらなければならないのは地元の人々にとって最も関心のある換地計画の作成です。これにできるだけ地元の人々の意見を反映させて公平にしかも能率的にやっていくためにつくられるのが、この土地区画整理

審議会なのです。ですからこの審議会委員の選挙は大変重要な選挙で、これによって地元の人々の意見が新しい土地の所有環境を定める換地計画に大きく活きてくるわけです。横浜市がニュータウン建設事業に、最初から市民参加のまちづくりを標榜してあらゆる機会

を捉えて地元の人々の意見を吸い上げ意思の疎通を図ってきたことが、こうした選挙への熱心な反応としてあらわれてきているということがいえると思います。

そしてその重要な選挙が終わって６日目の２月 15 日、今度はニュータウン建設の要となる横浜市の港北ニュータウン建設事務所が、河川工事事務所と合同で勝田団地のそばに移転し開所式が開かれました。こうして港北ニュータウン建設事業は下水処理、河川改修、農業専用地区設定などの関連事業の大きな進展の中に土地区画整理審議会の設置、建設事務所の新築移転とすべての準備が完了し、いよいよ世紀の大工事は順調なスタートをきり、大きくその第一歩を踏み出したわけです。

3 まちづくりの推進

（1） 明日の都市をひらく

昭和 58 年(1983)から 62 年(1987)頃までの港北ニュータウン区域内の様々なまちづくりの推進状況について説明しています。

(21 分 7 秒)

昭和 58 年 6 月 4 日港北ニュータウンを東西に貫く都市計画道路新横浜～元石川線の開通式が行われた。この道路は横浜市の中心部と周辺部を結ぶ放射状の道路の一部で新横浜から第三京浜道路の港北インターチェンジに接し国道 246 号線に結ばれ横浜市北部の交通混雑の緩和をはかると同時にニュータウンの住民の日常生活にかかせない重要な幹線道路である。

港北ニュータウンは横浜市の港北区、緑区にまたがり横浜都心の北西約 12 ㎞、東京都心の南西約 25 ㎞のところに位置する計画人口 30 万人の新しい都市づくりである。

港北ニュータウンは昭和 40 年に開発計画が発表されて以来 20 有余年、今新しいまちづくりが着々と進んでいる。昭和 58 年 8 月港北ニュータウンではじめての集合住宅への入居が行われた。公園や保存した緑地と調和した快適な住まいづくりを目指している。住宅都市整備公団が進めている開発事業の中で全国初の民間活力活用マンション、エステスクエア、ライフケアつきマンション、都市型の高齢者用住宅として初めてのものである。個室以外にも食堂や大浴場などの設備を備えている。区画整理事業によって換地をうけた人たちが新しい生活を始めている。

港北ニュータウンでは集合住宅の賃貸、分譲とあわせて宅地の分譲も行って

いる。土地の譲渡契約締結日から３年以内に住宅を建設して自ら居住することが義務づけられている。

新しい町名は地域の伝統・文化を尊重しながらつけられる。

地区内の道路は通過交通をうけもつ幹線道路、住宅へのサービスを目的とした区画道路、歩行者専用道路やコミュニティ道路などに区分されている。幹線道路は歩行者と立体交差するなど安全や環境保全に配慮している。区画道路は通過交通が入り込まないように工夫されている。歩行者用の道路は日常生活に欠かせない商店街、小中学校などの施設と住宅地をきめ細かく結ぶよう、ニュータウンの中に縦横に設けられて、安全で快適な歩行者空間を確保している。コミュニティ道路も随所に設けられている。戸建て住宅地の道路と歩行者専用道路が平行するところでは境界をなくして一体化させ人と車が共存した人間本意の道空間を作り出している。

緑道は地域の特色を活かしながら公園や集合住宅地などを結んで緑のネットワークを作っている。総延長は 14.5 ㎞にも及ぶ。公園は子供の遊び場としての児童公園、開発前の自然を残している近隣公園、地区公園。ニュータウン全域および周辺地域を対象とした自然公園的性格の総合公園に分けられ地区内に計画的に配置されている。総面積は約 98 ｈａであり日比谷公園の 6 倍以上になる。医療施設、歯科、内科小児科、外科の医院が開設されている。

地区内には小学校 22 校、中学校 12 校、高等学校３校が計画されており、すでに一部が開校されている。

上水道の配水池は地下に設けられ、上は運動場として利用されている。雨水は早渕川などニュータウン関連河川に放流される。汚水は地区外の港北、緑の２つの下水処理場で処理される。

横浜市の北部工場は全自動焼却装置を持つ近代的な清掃工場である。煙突の高さは 130m、大気汚染防止装置も完備している。清掃車は自動洗浄装置で清掃されゴミ収集にむかう。1 日最大 800t、約 100 万人分のゴミを処理する設備

をほこっている。北部工場のゴミ焼却の余熱を利用した都筑ふれあいの丘には地区センター、温水プール、障害者研修保養センター、老人福祉センターがある。温水プールは 25mの一般用、子供用、幼児用の３つのプールがある。市民が気軽に利用できる体育館。老人福祉センター、浴室、娯楽室、ゲートボール場の設備がありお年寄りの交流の場になっている。このような施設はニュータウンの中に色々計画されていてこれからの快適で住みよいまちづくりの一翼を担っている。

ニュータウンの土地区画整理事業の特徴の一つとして地権者の生活設計に対応した計画的な土地利用をはかるために地権者の意向を調査しその土地利用の目的に応じた換地を行ったセンター用地、アパートマンションなどの用地、工場倉庫用地、集合農地がある。センター用地の一つタウンセンター用地、面積は 73ha で新宿副都心の 2 倍以上にのぼり、横浜市北部の副都心としてニュータウンの商業、業務、サービス、文化などの施設の中心となる。これもセンター用地の一つである荏田近隣センター。けやきが丘、みずきが丘などの集合住宅の入居にあわせて昭和58年に開設されたニュータウンの商店街第一号である。

八百屋さんのインタビューの映像

アパートマンションなどの用地。幹線道路沿いの区画にアパート、マンション、ガソリンスタンド、レストランなど次々に建設されている。

工場倉庫用地。工場や倉庫と一般の住宅が混在しないように建築協定が結ばれた。

工場の方のインタビューの映像

農業の継続を希望する人は集合農地に換地された。このように地権者の意向に沿って生活再建がはかられている。

どんど焼き、毎年１月 14 日に行われる。正月の飾り物を燃やしその火で餅を焼いて食べると無病息災、家内安全の願いがかなえられるという古くからの行事である。

市民参加のまちづくりの一貫として児童公園の敷石作りに子供たちのデザインが活かされた。

港北ニュータウンまつり。このおまつりは町の早期熟成と心のふれあうまちづくりの助けになればということで企画された。緑道をめぐってクイズを解いていくクイズラリーは、地域の人たちにニュータウンの環境を知ってもらうためには恰好のイベントである。ニュータウンまつりの入場者は毎年増えておりニュータウンの知名度、イメージ作りを高めた。これからのまちづくりの促進に大きな役割を果たしている。このようなまつりをとおして人々の交流の輪が広がっていく。

港北ニュータウン事業推進連絡協議会の総会は、ニュータウンのまちづくりについて協議するために２年ごとに開かれる。

第６回総会では昭和 40 年に作成された港北ニュータウンの開発構想を大きく見直すための議論が行われた。そして最近の出生率の低下、高度情報化社会、高齢化社会の到来、食住近接志向、多様な住環境整備などまちづくりのニーズの変化などをふまえて、ニュータウンを活気ある多機能複合都市へ変換する方向づけがなされた。そこで新しい時代に対応するために土地利用特別委員会が設けられ、多機能複合都市に対する検討が始められた。

横浜市長代理は、３年後の市制 100 周年を迎えるにあたってまちづくりが一段と本格化することは、港北ニュータウンの歴史に大いなる１ページを飾ることができるものと確信をしていると挨拶した。

住宅整備都市公団総裁は、土地利用転換の先駆けとして誘致した企業の研究所の完成や民間活力導入による住宅建設が大きく脚光を浴び注目されていると挨拶した。

これに対して地元の地権者の代表から、造成工事スケジュールとまちづくりの基本的考え方、幹線道路網の整備および港北ニュータウンの活性化についての質問がなされた。

引き続いて企業の誘致をすることにより地域のイメージアップ、中間人口の増加などがはかられ、それに伴い地元雇用の拡大、消費が増えるなどのメリットがあると考えられる。また横浜市北部の副都心として位置づけられているタウンセンターの建設についても関係者と調整をはかりながらその具体化に努めていると住宅都市整備公団港北開発局長は答弁した。

企業の研究所、研修所、計算センターなどの誘致が多機能複合都市への第一歩であった。誘致に当たっては安全でクリーンな施設であること、敷地の 30%に相当する緑地を設けること、敷地の境界から一定の幅でオープンスペースを確保すること、建物はデザイン、色彩などに配慮することなど、住宅地にふさわしい施設となるよう心がけている。

ニュータウンは首都圏の西南部にあるという恵まれた立地条件や最近の知識集約型産業の内陸立地志向から国内はもとより海外の企業からも注目されている。

平成元年３月現在、１１の研究所、研修所などが完成している。

昭和 62 年２月 28 日、市営高速鉄道３号線の起工式が行われた。新横浜から新羽地区を経由しニュータウンの第二地区、第一地区を通って東急田園都市線

のあざみ野駅まで10.9㎞を16分で結ぶ計画である。ニュータウンの中には４つの駅が建設され、ニュータウンのまちづくりにいっそうのはずみが期待される。平成４年春の開通をめざして工事は急ピッチで進められている。

港北ニュータウンは豊かな生活環境と活気のある 21 世紀のまちづくりを目指して進んでいる。新しいまち、港北ニュータウン、明日の都市をひらく土音は今日も高らかに響いている。

（2） 複合・多機能都市を目指す

昭和 61 年(1986)ベッドタウンから複合・多機能都市へ方向転換した港北ニュータウンのまちづくりを中川地区を例に説明しています。(24 分 35 秒)

昭和 40 年に開発計画が発表されて以来 28 年経った今、大規模な新しい都市づくりが着実に完成に近づいています。横浜市が６大事業の一つとして計画した開発面積 2,530ha のうち住宅都市整備公団が 1,317ha を土地区画整理事業により着手してからすでに 20 年近い歳月が流れています。計画人口 22 万人に対し平成５年３月現在、約５万人が居住するニュータウンになりました。

港北ニュータウンは乱開発の防止と都市農業の確立を 2 つの目的とし、横浜市、地権者、公団の３者で組織する住民参加の事業運営システムによる、理想的な新しいまちづくりを実現しようとする３つの理念に支えられています。

こうしたニュータウンのまちづくりも昭和61年に一大転換を迎えることになりました。ニュータウンのまちづくりがベッドタウン型都市から複合・多機能型都市の新しい展開を図ることとなったのです。複合・多機能都市の理念の元に、企業の研究所や研修所等が多数誘致されました。昭和 61 年以来平成５年３月までに33社が進出し22の事業所が開設されています。

企業誘致は民間ディベロッパーによる住宅供給にも発揮されています。60 歳以上の高齢者を対象とした部屋付きマンションや居住者サービスを新しい売り物にした高層マンションが供給されています。民活のガーデンヒルズで共有スペースを利用し独立したサービスを提供するコーナーが設けられています。集

会やイベントに一役買って交流の輪を広げていきます。

昭和61年免許を取得し建設中の市営高速鉄道３号線も、ニュータウン地区内ではすでにその全貌を表しています。新横浜から終点あざみ野まで10.9㎞、その 60%は高架で運行されています。平成５年３月開通を目指して工事が急がれていますが、戸塚・上大岡・関内・横浜・新横浜と横浜市の中心地点を結ぶ大動脈となり、横浜市北部地域と中心部のバランスある発展が期待されています。

港北ニュータウン第一地区中川地区のまちづくりが始まっています。この地区は市営高速鉄道３号線中川駅を中心とする駅前センターと集合住宅を軸としたまちづくりです。そのまちづくりを見ていきましょう。

港北ニュータウンのセンター計画は、横浜市の４大副都心の一つを創造するタウンセンター・４つの駅前センター・６つの近隣センターから構成され、地区内市民のみならず、広く横浜北部の地域市民をも対象とするものです。それぞれのセンターが適切な機能分担と個性によって特徴のあるセンターづくりが要求されています。ここ中川地区では中川駅前センター街づくり協定運営委員会が地権者を中心に発足し、ネオロマンチックのコンセプトのもとにヨーロッパイメージのまちづくりを目指し、地権者全員で平成２年２月14日協定が実施されました。公共空間の演出を強調する中川地区のまちづくりがすすんでいます。市営高速鉄道三号線の中川駅から横浜駅まで25分、渋谷まで40分という地の利に人気が集中し、公団のサントゥール中川団地分譲住宅の募集倍率は、平均で２６２倍という人気を集めました。

こうした人気に応えるかのように中川駅周辺の工事が急速に進められています。市営高速鉄道３号線中川駅の建設現場。プラットホームの建設も急ピッチで行われています。地区公園山崎公園のプールの工事も行われ公園の整備も進みます。開校を間近に控えての建設中の小学校。そして中学校。公団のサントゥール中川。白いタイル壁の住宅が姿を見せました。市の住宅供給公社のウェストエミナンス。整備された歩行者専用道路と住宅地区を巡る区画道路。中川

駅を中心としたセンター地区にもようやく生活のたたずまいが見えてきました。

食料品専門のマーケットが店開きしました。スマートな郵便局も開設されました。地域住民のための地区センター。地元の集会や色々なイベントに利用されます。開校した中川西小学校。そして中川西中学校。約７ha の山崎公園。プールでは親子が夏のひとときを過ごしています。身近に楽しめる水との戯れは計画的なまちづくりの一端を見せています。

平成２年８月８日、第一地区を横断する幹線道路日吉・元石川線の開通式が行われました。この幹線道路の開通によって、中川地区の住民は川崎・横浜方面への距離が短縮されました。国道 246 号線から日吉・綱島方面がずいぶん便利になりました。こうして中川地区の開発は市営高速鉄道三号線の開通が待たれるばかりとなりました。ネオロマンチック、ヨーロッパをまちづくりのテーマとする協定に従って、中川駅開設にあわせて新たなビルが続々と誕生し、その出現が注目を浴びています。個性的で特色のあるホームセンタータントム。中世ヨーロッパ風の街並みがイメージ豊かな店舗によって造り出されます。

フィットネスクラブオーナーであり、まちづくりの委員長でもある大久保さんに案内していただきながら、まちづくりについての抱負をお聞きしました。

まちの景観を第一に考え心に安らぎを覚えるまちづくりをめざして、このセントラルはそのまちのシンボルになることを願って設計の段階から心を砕きました。そしてまちづくりは地権者一人一人が一員であることを再認識して全体のイメージをもり立て積み重ねがあってはじめて、まちのにぎわいが造り出されると。

港北ニュータウンの駅前センター、近隣センターがこれからどんなまちに成長していくか、それを支えていくのはこうした地権者の一人一人のまちづくりへのこだわりに違いありません。短冊状の換地を受けた地権者たちがお互いに

協力して共同ビルを建てまちづくりを着実に実現していきます。店舗の数も次第に増えていきました。中川地区での３つの研究所が姿を見せています。インダストリアルパークをイメージする研究所は新しい地区の活力となるでしょう。こうして中川地区はまちの機能と居住環境の整備が進んで日ごとに新しい都市の一角を占める様相を呈してきました。

公団の分譲住宅サントゥール中川に入居された、いそがわさん家族の映像

港北ニュータウンの開発前の中川地区は早渕川流域にある牛久保、山田、大棚、藤田、茅ヶ崎の５村からなっていて、多摩丘陵の南東部に位置しています。人々は高い丘陵を山と呼び山林とし、台地の平坦部を原と呼び畑とし、水引堀の役をする小川を通る谷筋を谷戸と呼んで水田を開きました。谷ごとに３軒、５軒と住まいを構え、各谷戸と谷戸のお互いのおつきあいとして組が作られてきました。また大山講や富士講等がさかんで当時の様子を残した石仏像や石像品が多く残っています。江戸赤坂御門から大山へ通じる街道で家内安全、商売繁盛と願う人々の往来する街道では不動尊を刻んだ石の道標や庚申塚が残っていて往時の名残をとどめています。地元の信仰を集める沿道沿いの典型的となるお寺。緑豊かな港北ニュータウンはふるさとを残し新しい未来を育てるまちづくりを目指しています。

地元や周辺でとれた野菜の朝市が毎日曜日に開かれます。都市に根付いている農業、生産者と消費者が直接向かい合う風景が見られます。

第８回港北ニュータウンまつり。毎年参加者が多くなりニュータウンのイメージが高まり都市づくりの促進に大きな役割を果たしています。このイベントは新旧の人々の交流の場として広がり新しい企画によってニュータウンの活力

の源泉になっていくことでしょう。

多機能複合都市づくりの充実を目指して誘致対象を広げた結果、積極的に学校の誘致を行いました。ドイツ人学校である東京横浜独逸学園が平成３年９月開校の運びとなりました。国際都市横浜にふさわしい光景でもあります。

平成元年９月、公団から地権者に対して仮精算実施の説明会が行われました。通常は土地区画整理事業の換地処分が終了した段階で精算は行われるものですが、港北ニュータウンの場合は事業が長期化したことや地価の高騰による地権者の不安を解消するため取り組んだものです。こうして公団は早期精算の地権者の要望に応えることとなりました。公団の土地区画整理事業ではこのように本格的な仮精算ははじめてのことでした。

第一地区の東北側、東山田地区に既存戸建て住宅が残っています。有馬川沿いにようやく幹川下水道が通ったことをきっかけにして、道路・排水などの基盤整備工事が平成３年４月始まりました。戸数２４０戸存地整備工事として最大の規模となりました。道路を新設するために住宅が取り壊されています。人々が生活する中での難工事も順調に進んでいます。

港北ニュータウンの中心地区であるタウンセンターの建設が始まりました。このタウンセンターには市営高速鉄道三号線のセンター南駅、北駅が開設され、

都市交通の重要拠点となるとともに、商業、文化、サービス、また公共公益施設も整備され、高度な都市機能の集積が図られます。タウンセンターの規模は東京の新宿副都心の２倍にも達し、横浜市の副都心となる機能が期待されています。

タウンセンターの開発を指導するタウンセンター開発推進協議会が平成３年６月に組織されました。

鉄道の他にも港北ニュータウンに隣接して高速道路のインターチェンジが建

設されています。平成６年度開設予定の第三京浜道路、新港北インターの工事が進んでいます。

開発計画から２８年、待ちに待った市営高速鉄道三号線の開通式が始まっています。このあざみ野駅から新横浜・横浜・戸塚駅まで市の中心部を通る大動脈が完成しました。ここはセンター南駅、将来四号線の乗り入れを見込んで、明るく機能的でゆったりした造りになっています。そしてセンター北駅とはツインになって１日平均２万 4000 人、新線全体で 12 万人の利用客が見込まれています。朝夕のラッシュ時はおよそ 5 分間隔に電車が運行されます。市営高速

鉄道三号線は戸塚・横浜を経て新横浜からニュータウンの第二地区、第一地区を縦断し、東急田園都市線のあざみ野駅までの 10.9 ㎞を 16 分で結びます。この地下鉄の開通で港北ニュータウン全体の活力あるまちづくりにいっそう拍車がかかってきます。

職住近接を目指し、住み、働き、学び、憩う機能を持つ２１世紀の都市づくり。多機能複合都市港北ニュータウンの建設は、これからも土音高く響いていくにちがいありません。

（3） 21世紀の明日をひらく

多機能複合都市を目指したまちづくり推進の状況(1997(平成９)年土地区画整理事業終了まで)を説明しています。
(26 分 2 秒)

国内最大規模の港北ニュータウン。21 世紀へとカウントダウンがはじまり、新しい時代が鼓動を始めた今、一つの近未来都市がその全貌をあらわそうとしています。横浜の中心部からおよそ 12 ㎞、東京都心部からおよそ 25 ㎞の位置にある港北ニュータウン。横浜市が展開する６大事業の一つとして副都心の機能を持つビッグなプロジェクト。計画面積 1317ha、計画人口 22 万人が快適に住み、働き、学び、憩うことのできる多機能複合都市を目指し、様々な夢を内包した新しいまちづくりが着実に進展しています。

そして今港北ニュータウンをその大部分とする新しい都筑区が発足しました。区のシンボルマークのもと、人々はニュータウンに集います。多機能複合都市を掲げる港北ニュータウンは、様々な企業施設に人々が働いています。これらの人々が地域に住む人々と交流し一つの複合体として成長しています。先進都市機能の整備はもとより、この地域に根付く豊かな歴史、文化、自然との共存を目指し、都市とふるさとが融合した大規模で斬新なまちづくりを繰り広げています。

多様な住宅供給方策がとられている港北ニュータウンでは、多機能複合都市にふさわしい住宅を供給しています。公団、県公社、市公社などの公的機関や民間などによる特徴ある質の高い住宅供給が行われています。集合住宅は周辺の町並み形成を誘導していく役割を担っており、人々の生活が根付き始めています。また港北ニュータウンでは高齢者に対応した住環境の整備にも取

り組んでいます。公団が建設を進めていた高齢者向け住宅、ボナージュ横浜が竣工し入居が始まりました。

港北ニュータウン内には小学校 22 校、中学校 12 校が計画されており、小学校は８校、中学校は４校、すでに開校されています。また高等学校はサレジオ学院など３校がすでに開校されています。そして良好な環境を求めて大学では洗足学園などがすでに開校しています。そして武蔵工業大学の開校は平成９年４月、目前に迫っています。

まちの活力を支える人々の医療施設も次々とできており、将来総合病院である北部地域中核病院が開設する予定になっております。

市営地下鉄４号線が予定されている川和駅前センターにＯＫストアが開店し、またセンター南地区、第二地区にはスーパーオリンピックも開店して内外の人々で賑わっています。中川駅前センターのネオロマンチックをテーマに、中川町前センターのまちづくりも着々と熟成を迎え、地権者の方々に対するまちづくりの熱意を伝えてくれます。中川駅前センターに続いてネオクラシックをテーマに仲町台駅前センターのまちづくりも着々と進み、新旧住民の心を和ませています。訪れる若者もまちに溶け込んでいるようです。

地域の人たちに豊かな生活を支援し、地域活動の拠点となる地区センターが各地区に次々と開設しています。ニュータウンの中心的な自然公園を目指し、

総合公園の整備も着々と進んでいます。この他ニュータウンには地区公園４カ所、近隣公園 15 カ所、児童公園 65 カ所、都市緑地２カ所が用意されており、自然の地形と緑を活かしたスペースになっています。園内プールはここ茅ヶ崎公園の他に山崎公園内にも用意されており、多くの子供たちの人気を集めています。

またグリーンマトリックスの骨格となる緑道は、各オープンスペースを結ぶ有機的なネットワークを構成しています。その総延長はおよそ 14.5 ㎞で、緑道わきにせせらぎが配せられ潤いと親しみのある空間を作り出しています。

そして人々が手軽にスポーツ、リクレーション活動に親しめる運動公園など緑の資源を効果的に活用しています。国際大会にも対応できる横浜市の室内水泳競技場の整備も進んでおり、スポーツ文化が息づくまちづくりが進められてい

ます。

東京・横浜の中心部から優れたアクセス、そして豊かな自然環境に恵まれた港北ニュータウンには、縮重機能が融合する多機能複合都市にふさわしい企業が数多く進出しています。現在ニュータウン内には企業の本社、研究所など 43 社が進出、37 社が開設されています。恵まれた環境の元、新時代に向けたビジネスの拠点として、期待が高まる港北ニュータウンのまちづくりがアメニティを高めながら着々と進んでいます。そして今や港北ニュータウンは先端企業が立地する 21 世紀に向けた新たなフィールドとして注目を集めています。

ニュータウンを訪れる人々の利便性を考えて、センター北第一地区やセンター南第二地区広場には地下駐車場の整備も進められています。この駐車場は限られたスペースを有効活用するために、両地区とも地下２層構造で合計約 1100 台収容が可能になっています。

電柱と電線のないすっきりとした街並みを実現するための共同溝、電線共同溝。タウンセンターでは電気、電話、ＣＡＴＶのケーブル、地域冷暖房、水道などの配管を一括収容する共同溝が敷設されています。共同溝の総延長は第一地区で約 700m、第二地区で約 1300mにおよびます。そして今熱供給敷設装置工事が急ピッチで進んでいます。南地区にある熱供給プラントが完成し供給が開始されました。

第一地区の中心となるセンター北駅のシンボル広場が完成しました。駅へのアプローチとなるシンボル広場は緑と水と光をデザインしモチーフとしています。魅力的な広場として計画された大階段の美しさは、人々を魅了してやみません。人々の待ち合わせの場所として名物になるかもしれません。

都市計画道路、佐江戸・北山田線ではセンター北駅東側付近で最大高さ 18m、延長 220mにもおよぶ道路擁壁工事を行いました。この付近は国指定の遺跡があり、文化財の保存と都市開発、都市景観の確保という課題を高い技術で解決しています。まちづくりは今や急ピッチに進んでいます。まちの顔となるセンター南駅前広場の竣工式をむかえて、これからたちあがる施設も建設の土音をさらに高鳴らせています。

センター南地区に都筑区の発足により区の総合庁舎が完成しました。新しいまちづくりを担って業務が開始されます。

横浜市歴史博物館はセンター地区のトップを切って開設されました。古代から近世までの歴史を身近に見聞きできる施設。そしてそれに隣接して国指定の大塚・歳勝土遺跡があり、遺跡公園として保存、整備され竪穴式住居などが復元されています。センター地区施設のたちあがりを促すために公団の局舎も完成し、港北ニュータウンの照会やニュータウン見学者の説明会場として多目的に使われる港北ニュータウンまちづくり館も開設されています。

自然の風や自然光を取り入れ、省エネを目指した次世代にふさわしい近代的オフィスとして東京ガスが営業を開始しています。

タウンセンター地区が首都圏を意識し、横浜市北部に位置する広域拠点となるためには、魅力的で調和のとれたまちづくりを推進する必要があります。そこで地権者、市、公団の関係者からなる開発推進協議会によって検討が進められてきました。まず平成 10 年春をめどに公団の商業業務施設であるプラザビルがセンター北駅前に、センターのたちあがりの促進を促すため建設が始まりました。続いてセンター南地区の共同化義務街区で同じく平成 10 年春に開設する西南東急百貨店をキーテナントとするショッピングセンターが建設を始めることになりました。

日曜日ごとに開かれている朝市。都市と農業が調和したまちづくりを目指す港北ニュータウンの各地で進められている朝市は、住民のふれあいを確実なものとしています。毎年行われる菖蒲祭り。年々人出も増えて名物となっています。同時に行われる野点も風情があり、自然の美しさに心を和ませて一時を過ごします。地元の実行委員会の手による第一回薪能は大成功を収め、人々は文化のかおりにふれて楽しみました。内外の人々も聞きつけてすでに３回を数えています。人々の交流も増え、夜の更けるのも忘れて能舞に堪能しています。

昭和 58 年港北ニュータウンの新しい住民が入居以来、今や約 12 万人を数えます。新旧住民はまつりを通して一つになり、日々のまちづくりに活力を見いだします。

北部地域療育センター、葛が谷在宅支援サービスセンターと地域のお年寄りのための施設も誕生し、デイサービスでお年寄りの心を和ませています。

港北ニュータウンに隣接し第３京浜道路都筑インターチェンジが平成７年４月にオープンし、これでニュータウンも高速道路と直結されることになり東京、横浜へさらに近くなりました。また東名高速道路と国道 246 号を結ぶ横浜青葉インターの工事も進んでいます。これが完成すると名実ともに港北ニュータウンは副都心の機能を備えることになります。

横浜市のゆめはま 2010 年プラン、21 世紀の新しい港北ニュータウンを見つめた計画です。その中で港北ニュータウンのアクセスについて触れています。それは東急東横線の日吉駅からＪＲ横浜線の中山駅までの地下鉄４号線が横浜環状鉄道の一部として位置づけられ、その早期建設を掲げています。センター南北駅を中心に地区内に４駅が配置される計画です。この地下鉄４号線が完成するとき、先行して整備されている川和駅前センターは南地区の第二駅前センターとして活躍することとなります。また第一地区の北山田駅前センターは基盤整備も完成間近となり４号線建設を促しています。この駅前センターの出現で周辺のまちづくりに拍車がかかることでしょう。

港北ニュータウンは昭和 40 年に横浜市の６大事業の一つとして位置づけられ、乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加のまちづくりを基本理念とする計画面積 2530ha、計画人口 30 万人の大規模事業です。公団はそのうち施工面積 1317ha、計画人口 22 万人、地権者数約１万 1200 人の国内最大規模の土地区画整理事業を施工してきました。平成８年９月換地処分の公告をもって、横浜北部新都市第一地区土地区画整理事業 548.2ha、第二地区土地区画整理事業 768.4ha について収束を迎えることとなりました。

昭和 49 年工事着手から 22 年、換地処分をうけて基盤整備も終了し事業推進連絡協議会もその大きな役目を終えることとなり、さらなるニュータウンの発

展を願って発展的解散をすることとなりました。

港北ニュータウンのふるさとをしのばせ景観を創出しているグリーンマトリックスシステムは、平成８年 11 月に第 16 回緑の都市賞において内閣総理大臣賞に輝きました。港北ニュータウンのたちあがりはまだまだこれからですが基盤整備の終了を記念してつくられた記念碑。地権者、横浜市、公団がしっかりと腕を組み進んできたこのまちづくりはすべての人々の誇りでもあるのです。

第一地区および第二地区のタウンセンターにはさまれてその他地区とされてきた中央地区は南北タウンセンターを連絡する重要な位置にあります。このためタウンセンターの機能を補完し一体となって横浜北部副都心の形成をはかり、健全で良好な環境を有する市街地の形成にむかい起工式が行われています。

地域づくり、都市づくりは人々の生活と経済活動の基礎となるまちを利用し、将来にわたって継続的に続けられていくものです。今港北ニュータウンは第二のステージをむかえたのです。あらためてニュータウン計画の原点であった市民参加のまちづくりを合い言葉に、次代に向けて地域としての誇りをもって都市を形成していく必要があります。タウンセンターの諸施設がたちあがり、港北ニュータウンが開花のピークに達するとき日本は新しい世代を迎えることでしょう。港北ニュータウンの人々が志を高く持ち、今世紀から新世紀に伝える地域コミュニティのストックを築いたとき、港北ニュータウンは 21 世紀への架け橋となるのです。

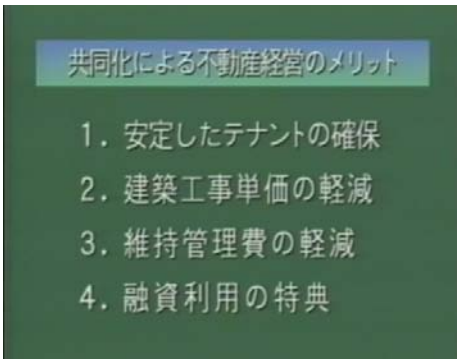
（4） 共同化のすすめ

共同による施設建設のメリットについて説明しています。（13 分 49 秒）

港北ニュータウンでは造成工事が着々と進み、まちづくりの新しい段階に入りました。これはコンピュータで描いた将来のまちの姿です。地面が赤くなっているところがタウンセンター。そして駅前、近隣のそれぞれのセンターです。これからニュータウンは魅力あるまちとして発展するための鍵を握っているのがこれらのセンターにおけるまちづくりです。にぎわいのあるセンターづくりのためには土地の価値を最大限に活かすことが必要です。そのためには隣り合った地権者の方々が力を合わせ共同化をすることにより、単独で建物を建てるよりも大きな力とすることが期待されています。特に間口が狭く奥行きの長いいわゆる短冊状の敷地では共同化により大きな効果をあげることができます。さて共同化にはどのような目的があり、そしてどのような効果が期待できるのでしょうか。これから共同化のポイントについてわかりやすく解説しましょう。

これは港北ニュータウンで最初に共同化により建設された川和駅前センターの共同ビルです。広場を挟んだ両側の建物がそれぞれ共同化事業によって建てられました。共同化により建物の一階にはこのように大きなお店を入れることができ、たくさんのお客をひきつけることに成功しています。また二階より上は大きな集合住宅とすることができました。二階の一部には事務所も入っています。実はこの建物はこのように６人の地権者の方々が所有する別々の敷地にまたがって建てられています。もし共同化をしないで敷地ごとに別々に建てたのなら、このような大きな建物とすることはできませんでした。

さて共同化にはどのようなメリットがあるのでしょうか。まず不動産経営にとっての効果をまとめてみました。不動産経営を成功させるためにはすぐれたテナント、つまりよいお店や企業などに建物を借りてもらうことが一番大事なことです。共同化により建物を立派にして信頼のできる一流のお店に入ってもらうことで安心した土地活用ができます。



二番目には工事費が割安になることがあります。一般的には小さな建物ほど工事が複雑になり工事費が割高になりますが、共同化で建物を大きくすれば無駄が省け工事費が割安になります。

三番目には建物の維持管理費が安くなると言うことがあります。大きな建物を全体で維持管理する方が経費が割安になりますので、長い年月にわたって安定した利益を上げることができます。

四番目には共同化で事業が大きくなることで様々な土地活用や融資のための制度が受けやすくなります。また、よいテナントを紹介してもらうなど単独でやるより有利な面があります。

さてこれから共同化による建物設計のポイントについてモデル設計案を使って具体的に見てみましょう。左側は敷地ごとに別々に建物を建てるケース、右側は共同化により一つの建物とするケースです。共同化ではいくつかの短冊状の敷地をひとまとめの大きな敷地と考えることで、自由な建物の設計できるようになります。敷地の間口が狭い場合には許された高さまで建物を建てますと細長いペンシルビルとなってしまいます。これでは間取りが悪くまたエレベーターが必要なので建築費も割高となります。また実際には敷地の包囲によっては北側斜線などの建築制限により建てられる高さに限界がある場合があります。共同化を行うことで大きな建物を経済的に建てることが可能になります。また北側斜線などによる制限も最小限に抑えることができます。

今度は立体的に見てみましょう。これは敷地ごとに別々に建物を建てた場合のモデルです。共同化をすることでこのように大きく立派な建物を建てることができるようになります。建物の一階部分はお店にとって最も価値の高い場所です。

今赤くなったところがお店になるところですが、このように別々に建物を建てたのでは小さなお店にしか貸すことができません。共同化をすればこのような大きなお店に入ってもらうことができます。間口が広いとお店にとっても自由な売り場の配置ができるので使い勝手がよくなります。今青くなったところは一階から上に上がるための階段とその出入り口です。建物ごとに階段が必要になるので、間口の狭いお店にとっては使い勝手がますます悪くなっています。共同化をすれば階段と出入り口の数を減らし、またお店の邪魔にならない場所に設けることができます。建物の一階や二階はお店や事務所としてゆったりと使い、その上には集合住宅をのせることで土地の有効利用を図ることができます。

水色と青色の部分は住宅にできる部分です。日当たりのよい落ち着いた住宅とするためには、建物と建物の間に充分なゆとりを持たせることが必要です。左側のように細長い建物では日当たりの悪い部屋が多くなってしまいます。右側のように共同化をすれば、廊下を有効に利用することで間取りのよい住宅を効率よく配置することができます。小さな建物にとってエレベーターは効率が悪く設置することはあまりありません。エレベーターなしではせいぜい四階建てが限界でしょう。共同化して敷地面積が大きくなれば、エレベーターを設置することで六階建てくらいの建物を建てることもできます。共同化をすれば住宅の出入り口にはロビーや中庭もつくることもできますので、落ち着いた格調の高い雰囲気とすることができます。

最近ではお店や住宅にとって十分な駐車場がついているということが大きなポイントとなります。このように敷地の間口が狭いとたくさんの車を止めることができません。また駐車台数を増やせば大きな建物を建てることができません。共同化をすれば駐車場は地下などにまとめて設けることで駐車台数を大幅に増やすことができます。また屋内の駐車場は建物の容積を計算する上で有利な扱いを受けることができます。

共同化のもう一つの利点としては、広い面積を自由に使うことで様々な用途に対応した建物の設計とすることができます。これは一階部分をお店にそして二階以上を住宅としているケースです。お店を二階まで入れることができれば住宅は三階以上にします。これは住宅の代わりに事務所を入れたケースです。住宅よりも事務所の方が日照の問題がなく、また住宅設備がいりませんので建

物を単純化することができます。立地条件がよい場合には事務所として貸すことでより効率の高い不動産経営をすることができます。

センター地区といえども必ずしも建物全体をお店に貸すことができるとはかぎりません。大きな建物を有効に利用するためにはお店の他に住宅、事務所など異なった用途を組み合わせることが得策です。共同化によりお店と住宅、お店と事務所など一つの建物の中に異なった用途を組み合わせることがやりやすくなります。

さて共同化のポイントについて色々な説明をしてきましたが、おわかりいただけましたでしょうか。このような長所を取り入れることでニュータウンでは共同化ビルが次々と建設されています。これは地権者５人の共同による中川駅前センタービルです。一、二階をお店、三階以上を事務所としています。この建物は地権者４人の共同ビルで中川駅前センタービルの向かい側にあります。一、二階が店舗で三階より上は賃貸住宅になっています。中川駅前センターではヨーロッパのネオロマンチックをテーマにした街づくり協定によるまちづくりが進められています。共同化によって建てられるこれらの新しいビルもこのテーマにそってデザインとなっており優れた街並みの形成に貢献しています。商店街に魅力ある個性をうみだし賑わいをうみだすためにまちづくりは大きな力となります。今後それぞれのセンターで街づくり協定を軸としたテーマにそったまちづくりが進められることになっています。これから港北ニュータウンのそれぞれのセンター、地権者の方々による共同化と街づくり協定により遠くからもお客を呼べる魅力あるまちとして発展させていきたいものです。

（5） にぎわいのある街づくり

にぎわいのある街づくりを進める様々なアイデアを説明しています。（14 分 24 秒）

港北ニュータウンの駅前近隣センターでは、基盤整備の完成とともにいよいよまちづくり、商店街づくりを進める段階に入りました。楽しくにぎわいのある商店街には遠くからわざわざ人が集まってきます。街角では人々が語り合う楽しい風景が見られ、ゆっくりと買い物を楽しんでいます。

さて一体どのようにすればこのようににぎわいのあるまちができるのでしょうか。このようなまちに共通していることはまちに個性と魅力があることです。新しいまちに個性と魅力を生み出すためには地権者のみなさん、そしてお店の方々が共通の目標を持ってまちづくりを進めることが大切です。

そのような目標として街づくり協定があります。よいお店があることはもちろんですが、このような魅力的な街並みができればその街の雰囲気を楽しむために人が集まり商店街はにぎわいますます発展するでしょう。

さてこれからこのビデオでにぎわいのあるまちづくりを成功させるためのいくつかのアイディアをご紹介いたしましょう。

まず一番大切なことは表通りに人のにぎわいを絶やさない配慮と工夫をすることです。表通りに面した建物の１階部分には必ずお店やレストランなどをいれるようにしましょう。そしてできるだけ通りからお店の中の様子が見えるようにすることがにぎわいを生み出すためのポイントです。１階までマンションが入るとそこでまちは死んでしまいます。このように１階にお店が入ればまちに活気が生まれます。マンションの裏側はさびしくなってしまいます。足元周

りにお店を入れればまちのにぎわいがつながります。事務所ビルの足元も殺風景になりがちです。このように１階にはお店を入れたりショーウィンドーをつくるようにしましょう。スーパーなどの大きなお店が入る場合、通りに面して壁ができてしまうことがありますが、中を見えるようにしたり楽しいショーウィンドーをつくればにぎわいを出すことができます。

夜になってからのにぎわいも大切です。早く閉まってしまうお店ではリングシャッターなどを使って明かりのついたお店の中が見えるようにしましょう。

お店と通りの間にゆとりができお店のにぎわいが外に広がればまちがより楽しくなります。そのためにはいわゆる壁面後退をすることが有効な方法です。このように建物を道路から離すことを壁面後退といいます。壁面後退をすればそこにワゴン、プランターなどを置くことができるので楽しい雰囲気が生まれます。壁面後退をした部分は通りの仕上げとそろえましょう。壁面後退をさらに大きくとれば木を植えたりテラスに椅子とテーブルを置くこともできます。通りから少し入った中庭をつくると気持ちのよいポケットパークになりお客さんを奥の方まで引き入れることができます。

２階以上にお店が入る場合にはお客さんが自然に入れるような工夫をすることが大切です。このように階段を見えるようにして楽しい雰囲気を出したり吹き抜けをつくると効果的です。

たくさんのお客さんを呼ぶためには十分な台数の駐車場を確保することが必要です。建物の大きさに合わせた駐車場を設けましょう。車で来るお客さんにとってはこちらが玄関になりますので緑を増やすことで美観に配慮しましょう。

さてにぎわいのあるまちづくりのアイディアについて説明してきましたが、これから港北ニュータウンの新しいまちづくりの例として仲町台駅前センターをご紹介しましょう。

仲町台センターでは個性と魅力のあるまちづくりを進めるために自然と人間、ネオクラシック、花という３つのテーマを基本とした街づくり協定をつくりました。仲町台センターでは健康的で気持ちのよい街の雰囲気作りをめざし自然と人間をまちづくりの総合テーマとしています。その開けた地形と隣接する

公園、緑道などの豊かな緑を活かすとともにセンター周辺の国際的な施設、環境に配慮した活動を行っている企業などと協調したまちづくりをめざしています。商店街は環境に優しい商品をそろえたお店、健康に配慮したレストランなど本物志向のお店がそろうことで、大人のまちとしてアピールするでしょう。そして都会と自然を調和させるために、様々な方法で緑化をすすめます。ポケットパークに木を植え、建物の壁面にはツタを生やしたりあるいは屋上庭園など立体的に緑を増やすことが考えられます。また建物の足元周りなど人が身近に触れる部分には石、レンガなどの自然の材料を使って優しい表情をつくります。建物の色彩は茶色や緑色など自然界にある落ち着いた色を用いることで調和のとれた街並みがうみだされます。

仲町台センターではネオクラシックをデザインテーマとし個性的で魅力ある街並みの形成をめざします。ネオクラシックは明るく格調の高い雰囲気が特徴的なスタイルで仲町台という地名の明るい響きに呼応してイメージされました。

もともとネオクラシックは近世のヨーロッパで生み出されたスタイルですが、その後現代に至るまで世界中で多くの建築家によって様々なネオクラシックがつくられています。このように様々な地域性、建築家の個性に対応できるスタイルなので仲町台独自のネオクラシックを創造します。仲町台の駅舎をはじめとする公共施設、大きな建物、そして小さな建物までもそれぞれが様々なネオクラシックで調和することでしょう。

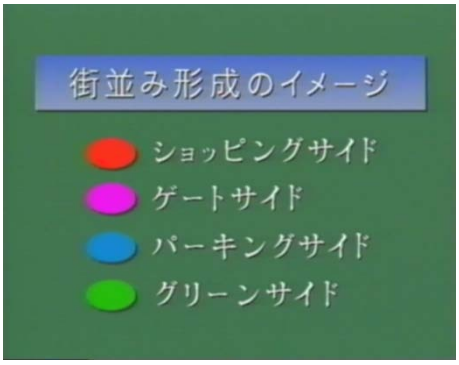
さて駅舎を例にしてネオクラシックとはどのようなものか実際に見てみましょう。まず全体的な特徴は、主に直線を使ってデザインされていることでかっちりとした印象を与えます。この水平のでっぱりはコーニスラインといい、建物の階ごとの継ぎ目や軒の線を表します。窓の形は縦長のものを基本とします。コーニスラインの水平線と縦長の窓の垂直線の組み合わせでバランスのとれた壁面ができあがります。建物の出入り口については、このように三角屋根などを付け加えることで独特の表情を生み出します。屋根にもポイントとなる要素を加えることで楽しい雰囲気を出すことができます。

ネオクラシックの建物にヨーロッパのまちにみられるような立体看板が加わ

ることで、わかりやすく楽しい商店街の雰囲気が生み出されます。袖看板、壁面看板などはできるだけ小さなものとします。このような看板ではお店の種類がわかる内容やお店にちなんだテーマなどが立体的に楽しく表されています。ローマ字などのアルファベットを使った看板はすっきりと見え、また外国人にもわかりやすくなります。

仲町台センターでは花をふれあいテーマとし、生き生きとした魅力のある環境づくりを行います。四季折々の風景の変化を楽しむためにたくさんの人が集まってまちがにぎわいます。また花の手入れといった活動を通して思いやりのある地域コミュニティが形成されます。お店の前に花壇をつくったり、植木鉢を置きあるいは窓辺にプランターを取り付けることで街並みに彩りをそえます。

仲町台センターでは通りの種類によってショッピングサイド、ゲートサイド、パーキングサイド、グリーンサイドと４つに分類しそれぞれの条件にあった街並みをつくることが考えられています。これからそれぞれのサイドについて将来のまちのイメージをみてみましょう。



ショッピングサイドでは都会的でヒューマンな街並みの形成をめざします。お客さんにとってにぎわいがあり楽しい街並みをつくり出すことが目標です。

ゲートサイドでは都会的で格調の高い街並みの形成をめざします。まちにきて最初に目に入る景観なので、建物全体としてデザインを整えます。

パーキングサイドでは美観に配慮した街並みの形成をめざします。駐車場などは目立たないように配置し特に緑を多くします。

グリーンサイドでは緑道と調和する街並みの形成をめざします。

さて以上にぎわいのあるまちづくり、商店街づくりを成功させるためのいくつかのポイントを紹介してきました。このようなアイディアを実現しにぎわいのあるまちづくりをするために最大の鍵となるのは地権者のみなさん、そしてお店の方々が共通の目標を持ってまちづくりをすすめる熱意なのです。

（6） 魅力ある街づくりをめざして　～港北ニュータウン・タウンセンター～

多機能複合都市タウンセンターまちづくりの考え方を説明しています。(28分12秒)

新たな都市の形成をめざして開発がすすめられている港北ニュータウンです。港北ニュータウンにきたるべき21世紀に向けて開発されていく多機能複合都市タウンセンターのまちづくりについてみなさんとご一緒に考えていきたいと思います。

港北ニュータウンは横浜市中心部から北北西へ12㎞、東京都心部から南西25㎞と地理的な条件に恵まれています。地下鉄３号線をはじめ今後鉄道網、広域幹線道路網などの拡充によって、横浜市の副都心としてさらに首都圏全国を含む広域を対象とする核都市として期待されています。この港北ニュータウンの発展を担うタウンセンターの整備が現在急ピッチですすめられています。タウンセンターは新宿、渋谷、銀座と同じような規模を持ち、これらのまちに匹敵する日本全国でも有数のまちづくりになります。そして商業、業務、文化などの多様な機能、大小様々な空間、形態が複合する多機能複合型のセンターをめざしています。このようにタウンセンターを、広域を対象とする拠点都市にふさわしいまちにするためには、まち全体が一体となった魅力を醸し出すまちづくりを行う必要があります。

地権者のみなさんと関係者が協力して行うまちづくり、それがタウンセンターなのです。その一貫として今地権者代表者の方々と関係者が明日のタウンセンターの姿を見つめ、地区全体を調和のとれたまちにするための検討を行っております。その一つが街づくり協定です。地権者の皆さんが実際にまちづくりを行う時のよき指針となります。そのまちづくりの考え方に基づいた基本的な方向性について考えてみたいと思います。まちは大勢の人が訪れにぎわってこそ成り立

つものです。大勢の人々が訪れるようなまちをつくるためには、次の６つの考え方が大切ではないでしょうか。

それは色々な用途や機能の建物が立地してにぎわいの連続性をもつまちづくり。人々が自由に行き来でき発見のある楽しいまちをつくる快適なオープンスペースづくり。建物の個性と通り全体が共鳴するまちづくり。オープンスペースにおかれる水、緑、光、モニュメント、看板、テントなどにより小さな魅力のちりばめられた街並み。広域来外者にも対応できる利便性の高い便利なまちづくり。広域的集客力を持つ優良な施設を誘致するための共同化の推進。つまり広域的集客施設の立地促進です。

それではこの６つの考え方に沿って、より良いまちづくりをするためにはどんな点について考えたらよいか見ていくことにしましょう。

最初は色々な用途や機能の建物が立地してにぎわいの連続性を持つまちづくりについてです。まずふさわしくない例から見ていくことにしましょう。

このようなガソリンスタンド、ホテル、倉庫、住宅はにぎわいを分断している例といえましょう。歩行者向けの道路であるのに車がいつも出入りして安心してスムーズに歩けなかったり、商店街の中に突然ホテル、倉庫、住宅が現れ、にぎわいを分断しています。にぎわいの連続性をもたせた例として銀座通り、渋谷公園通りを見ていくことにしましょう。先ほどのガソリンスタンドやホテル、倉庫、住宅のような歩行者にとってにぎわいを分断する施設はありません。また好ましくない例として殺風景な工事現場の仮囲い、丸見えの駐車場、３時に閉まる銀行などの業務施設、夜間真っ暗なシャッターをおろした施設などもあげられます。みなとみらい２１地区の工事現場にはこのような仮囲いがほどこされ細やかな気配りがなされています。休日閉店の業務ビルの場合。にぎわいを分断させないように洒落たショーウィンドーに絵画を展示するなどの工夫をほどこし、にぎわいに貢献しています。夜間閉店のビルがにぎわいの連続性を保たせるためにシースルーシャッターと店内照明。洒落たショーウィンドー。建物自体をライトアップしている例があげられます。

通りに明かりを出すことが夜のまちづくりになるのです。

次は人々が自由に行き来でき発見のある楽しいまちをつくる、快適なオープンスペースづくりについてです。まず街角広場からみていきましょう。

渋谷１０９は建物のデザインを特徴付けて場所の目印としています。足元には人が集うことのできるスペースが用意され、イベントなどもできる設備なども用意しています。渋谷丸井前は交差点に面した広場を設け、様々なイベントが行われています。川崎ルフロンは３つの建物を立体的に建設し、その建物に囲まれるように公開広場が設けられています。休日には様々なイベントが開かれています。自由ヶ丘ラヴィータは小さい建物がいくつか集まって一つの小さな中庭をつくり、それに面して店舗が配置されています。にぎやかな街の中でほっとできる場所をつくることも大切です。

セットバックとも呼ばれる壁面後退についてごらんください。従来の元町では商店街として歩道の狭さが悩みの種となっていました。そこで商店街の人全員で１階部分の壁面を下げて歩道を広げる壁面後退を行いました。その結果豊かな歩行者空間が生み出され、大勢の人々が訪れるようになりました。商店街通り全体でにぎわいづくりに対して協力することが大切です。

これまでは大型施設を例にした場合のものでしたが、次は小さな敷地を例にした場合のものです。どのようなことを考えればいいでしょうか。このようにほんの少し壁面の位置を下げたりディスプレイなどを工夫することで店先をきれいに見せることができます。道路空間だけでなく敷地や建物の中にも通り抜け通路をつくることで多様な人の流れをつくり、にぎわいを多様化させることもまち全体の魅力づくりには大切なのです。その例をごらんください。

イタリアミラノのガレリアは高さ 20mのガラス屋根でおおわれた歩行者道路と建物が一体となった空間です。通路に対して店舗が連続しておりガラス屋根からの自然の光があざやかです。神戸ハーバーランドのアトリウム空間。このアトリウムは２つの施設を結びつけた空間です。天然太陽光がはいる明るい空間で天候に関わりなくショッピングが楽しめます。仕掛けモニュメントやベンチ、緑が置かれハーバーランド内の歩行者ネットワークの一部となっています。カナダトロントにあるイートンセンターはアトリウムに面して何層ものデッキ

を設け店舗を設定しています。色々なレベルでアトリウムを横断するデッキがあります。パッサージュいわゆる路地空間の例を見てみましょう。このような親密な空間づくりは敷地内、建物内だからこそ事業者の工夫によって作り出せるものでしょう。神戸ハーバーランドのモザイクは港に隣接しています。映画館やブティック、飲食店などの小さな魅力ある店舗をちりばめ親密な空間を作り上げました。施設の中に新たな路地空間を実現した例といえましょう。

次は建物の個性と通り全体が共鳴するまちづくりについてです。その例から見ていくことにしましょう。大倉山エルム通りはギリシャ建物様式のデザインで街並みを統一しています。白い壁、円柱を用いたデザイン、看板までデザインが工夫されています。商店街全体で街のイメージ作りの努力をしているといえましょう。名古屋大曽根ＯＺモールは大倉山エルム通りと同じように商店街全体でいっせいに建て替えが行われました。建物のデザインの統一にあたって設計者や建築業者の組織化による意識の統一が行われたのです。また道路整備も同時に行われました。マイカル本牧は交差点に面して建物の角にとんがり屋根の塔を建てています。建物に番号をつけてわかりやすくしています。神戸市郊外にある西神ニュータウンの建物は色、デザインをそろえ統一感ある街並みを作り出しています。大阪のアメリカ村は狭い区域にアメリカンカジュアルの店が集まり地域の個性を生み出しています。同じような施設を集めることも魅力の一つといえましょう。タウンセンターのまちづくりは港北ニュータウンだけではなくより広域からの集客をめざしています。そのためにはまちの個性づくり、イメージ作りが大切というわけなのです。

次はオープンスペースに置かれる水、緑、光、モニュメント、看板、テントなどにより小さな魅力のちりばめられた街並みについてです。敷地内に設けられたオープンスペースには水、緑、光、モニュメントなどを備え、まちのにぎわいを創造する演出を行うことも大切です。看板などのに小さなものにこだわ

りを感じられる店舗は品揃えもこだわりを感じられます。メーカー支給の看板は安上がりではありますが店の魅力づくりにならない例が多いでしょう。また建物の番地をこのように表示するのもよいでしょう。次は設備などがむき出したビルの好ましくない例を見てみましょう。屋上の設備や足元の設備がむき出しのビルは街並みを著しく乱します。このビルは屋上の設備を隠すパネルをデザインしてオブジェのように見せています。見せ方を工夫することで建物の特徴にしてしまうことも可能です。

次に広域来外者にも対応できる利便性の高い便利なまちづくりについてご紹介しましょう。そのためには２つの事柄があげられます。まず第一にまちに来る人を限定しないと言うことです。そのために坂のあるタウンセンターの利便性を高めなければなりません。例えば高低差のあるところのエスカレーターやエレベーターの機械処理などの工夫が必要となります。第二にはまちに行く交通手段を限定しないということです。そのために車で来た場合の駐車場、駐輪場を探さなくてもよいまちにしなければなりません。　それらの例をごらんください。多摩ニュータウンの京王堀之内では商業施設の裏側の住宅地にエスカレーターとエレベーターを設けています。施設の敷地内にも設けデザインにも非常に凝っていてまちの個性となっています。川崎ルフロンは３つの施設で共同で設けた広場の中心に公共利用のできるエスカレーターを設けています。神戸岡場ダイエーは傾斜地に建っています。敷地内に公開エスカレーターを設けて傾斜地を活かした施設づくりをしています。建物全体を同じデザインモチーフを使用して統一感を持たせています。周辺の道路からスムーズに建物に入ることができるような工夫もなされています。駐車場の確保はタウンセンターの課題といえますが街並みにあった駐車場整備が大切です。神戸大丸パーキングは通りに面した１階部分に店舗を配置して通りのにぎわいに貢献しています。建物のデザインも一目見ただけでは駐車場に見えず、にぎわいの連続性を持たせています。一般的な駐車場は町中にあっても殺風景となる場合が多いようです。歌舞伎町パーキングは外壁のパネルのデザインを工夫するだけでおしゃれな感覚になっています。

最後に広域的集客力をもつ優良な施設を誘致するための共同化の推進、つまり広域的集客施設の立地促進についてご紹介しましょう。それらの例をごらんください。有楽町マリオンは２つの百貨店、５つの映画館と新聞社の複合ビルです。このビルができて銀座のまちの人の流れや来客層が大きく変わったと言われています。横浜西口のこの商店街は通りの先に東急ハンズや映画館小劇場ができたことにより非常に人通りの多いにぎやかな通りに変身しました。核的な施設の立地が通り全体の活性化に貢献した例といえましょう。自由ヶ丘メイプルファームは小さい建物がいくつか集まって一つの小さな共同の中庭をつくっています。路地空間も生み出すことができました。このように大勢の人を集める力を持った施設をつくるためにも共同化は大切なのです。

港北ニュータウン、タウンセンターのまちづくりの考え方にそって様々な街をみてきました。紹介した各地のまちづくりでは地権者の方や開発者、行政が協力してまちづくりをすすめています。そこでは共通の考え方を協定や協議事項といった約束事をまちづくり協定としてお互いの取り決めを行い、それに基づいて計画的なまちづくりを行っています。タウンセンターのまちづくりに参加される地権者のみなさんと関係者が協力し、タウンセンターに共通の考え方や協議事項といった約束事にしてお互いの取り決めを行い、それに基づいて計画的なまちづくりを推進していくことで、他の都市にも負けないすばらしいまちをつくりだすことができるでしょう。タウンセンターのまちづくりに参加される地権者のみなさんが協力してタウンセンターに共通のあるいはそれぞれの通り、界隈ごとに約束事を作って協調しながらまちづくりをすすめていく必要があります。この街づくり協定にそって皆さんの創意工夫を集めることで楽しく自然で人が集まるにぎわいのあるまちをつくっていきましょう。

港北ニュータウン、タウンセンター。この完成により港北ニュータウンは首都圏を含む

広域対象の拠点都市としての機能と緑豊かな自然環境が調和する魅力あるまちとなるでしょう。それは住む人、働く人にとっても生活に根ざしたゆとりと潤いの感じられる人間に豊かなまちです。地権者のみなさん、タウンセンターをデザインするのはみなさんです。力をあわせてタウンセンターのまちづくりをより実りあるものにしていきましょう。

（7） 港北ニュータウン建設事業・事業記録　～地権者は語る～

港北ニュータウン建設を積極推進してきた金子保氏が、開発前の地域の様子やまちづくりへの思いを語っています。（23 分 7 秒）

平成 7 年度完成をめざして工事が進められている横浜港北ニュータウン。全国でも最大規模の区画整理事業として、また 21 世紀を先取りするまちづくりとしてその歩みは各方面から注目されています。昭和 40 年横浜市がニュータウン建設計画を発表して以来、常にこの地に住む人々の先頭に立ちまちづくりを積極的に推し進めてきた方がいらっしゃいます。金子保さん 75 歳。

＜金子さん＞

先祖の土地をお許しいただいて理想的なまちづくりに公団や市を通して協力し合ってきたまちですから、今日本で一番大切なのは何かというと 21 世紀の新しさもそうでしょうが一人一人が安全で安心して、そして平等にきれいな水や空気を分け合える生活環境。そして日本の一番優秀な民族がこの都市の中で生き生きとして子孫が育つようなまちにしたい。

半生を捧げたニュータウン建設。まちを歩くと金子さんの脳裏を様々なことが駆け巡ります。

＜金子さん＞

春の光を浴びていると子供時代の原野を思い出します。

＜聞き手＞

こちらで生まれ育ったのですか？

＜金子さん＞

何百年先祖代々ここで生まれ育ったわけですから。

＜聞き手＞

原野とおっしゃいましたが、このあたりはどのような…。

＜金子さん＞

武蔵野の一隅で多摩丘陵のふるさとですから。

＜聞き手＞

このあたりはその当時はどういう住所だったのでしょうか。今では市ですが。

＜金子さん＞

明治の廃藩置県で村制がひかれ、村の役場や学校ができました。その当時は神奈川県都筑郡中川村。都筑郡は 11 村。約 5，000 の農家がありました。

＜聞き手＞

このあたりでは何がとれていたのでしょうか。

＜金子さん＞

生活のまず第一番に早渕川沿岸を中心とする田んぼ、米でほぼ自給自足でした。

＜聞き手＞

野菜などはどのような…。

＜金子さん＞

野菜は軟弱野菜で葉ものなど。

＜聞き手＞

ほうれん草などですか。

＜金子さん＞

それよりも一番この近くでよかったのはいちご、栗とたけのこや柿。東京に近いものですから東京の台所にいっていました。

農家に生まれ農業に夢をはせていた若き日の金子さん。隣接する大消費地東京と横浜が大きく未来を約束してくれているように思えたといいます。

＜金子さん＞

生活は豊かでしたが道路が悪かったので不便で、バスに乗るにしても一山越えて出てくるということですね。昭和 14 年４月１日の時に中川村が解体して中川地区ということになりまして、横浜市に入ったら道ぐらいよくなるだろうと思っていましたが昭和 14 年になってそれ以降都市計画税を払っても道がちっともよくならない。港北区役所が最初は篠原にできて菊名で二度建て替えている。

＜聞き手＞

ここからすごく遠いですね。

＜金子さん＞

遠いですよ。１日がかりです。バスも１時間に１本か１日に２本ですから、バスに乗って電車に乗って、市役所までは１日がかり、区役所も早くても半日がかりでした。

＜聞き手＞

村のほうがよかったですね。

＜金子さん＞

村役場は歩いても 30 分くらいでしたから。港北区役所、市役所へ行かなければ生活ができない、道路もよくならないということで非常に失望しました。中原街道は計画には入れてくれるがこの道ができるのは 50 年かかると言われたので、目の前が真っ暗になってしまいました。もうどうしようもない、50 年たったらどうなるか、ゴミためになってしまう。この何百年間支えた優良な農村をやはり人にふられてなるものかと思います。我々もそうですが新しく入った人も稲の作るところに家を建てたら、１年２年先たてばふんづまりになってしまいますから。ニュータウン開発前に私はそういう事情がありますので当時日本住宅公団の総裁がなんぶさん、建設事務次官がしぶやさんでしたので、茅ヶ崎を中心に約 50 万坪の開発を同志の方と画策して公団に土地を提供しようと話を進めていたのです。協力はしたが市営もだめで、東急の開発もだめで独自の開発を計画していました。

＜聞き手＞
　ということはやはりこのままではいけないから、道もほしいしというような想いが村のみなさんの気持ちがあったということでしょうか。
＜金子さん＞
　いいえ、密かに私ども有志の方々で考えていたことです。たまたま飛鳥田横浜市長になって港北ニュータウンが横浜市の６大事業の一つとして、港北ニュータウン建設事業を市民参加という形で協力してくれないかという話がありましたので、横浜市が本気になってやるならばそれに乗り換えようということで公団の用地買収は別に決めていませんでしたので、横浜方式に切り替えて検討しようと、こういうことで有志としてまとめたわけです。
＜聞き手＞
　そのとりまとめ役をやられてけっこうご苦労でしたでしょうね。
＜金子さん＞
　一般にみなさんに考えを話したら大変ですので、聞いてみても所有面積の40％、ようするに 200 坪以上土地を持つ地主に対して、主として農家ですが、当初買収面積というのは 45％、区画整理は残った面積に対して 40％、そして事業計画は 55 年に完成するということです。
＜聞き手＞
　そうすると１軒の家から土地を出さなければいけない…。
＜金子さん＞
　３分の２なくなってしまいます。
＜聞き手＞
　３分の２。それはかなりショックですよね。
＜金子さん＞
　価格は平均２万円ですから。当時一般の土地の価格は平均７万円くらいしましたから３分の１ですよね。
＜聞き手＞
　それではかなり反対がありましたでしょう。
＜金子さん＞
　85％反対でしたね。

＜聞き手＞
　どうやって説得されたのですか。
＜金子さん＞
　説得というよりこういう話があるから話だけでも聞いてみようと。良い悪いは別にして、やるやらないはこれからだから、話だけでも聞いてみようと。知らないでやっておいて、もし話もしてくれないとしたら困るから一応話をしよう、話を聞いてみようと。これで会議に臨んだわけです。賛成だといったらこれは爆発して大変なことになりますからね。歴史は 300 年 400 年という歴代の農家で、私ども農家は勉強もしないで農家を継がなければいけないという厳しい家訓がありました。
＜聞き手＞
　大きく変えていくのはいいなと心を動かされたというのはどういうことからでしょうか。
＜金子さん＞
　長い間農業でやってきましたが、農業もやがて転機に入るだろうと、市は乱開発を防止というようなことで色々市街化都市計画を変えている、日照権等の要望もでてくる、そういう未指定地区という時代でもありましたから。一方ではニュータウンにふみきろうとした昭和 40 年前後はすでに高度経済成長にはいっていますから。昭和 34～35 年から。田園都市線ができて東横線と間に挟まって駅からちょうど中間距離にあります。かつては共同の農業の生活でお互いの話が通じたものが都市と農村になってしまいました。稲もつくっていましたが田んぼは重油やウジでだめになってしまって農業ができなくなってしまいました。

　昭和 30 年代後半になると日本列島は高度経済成長に沸き返りました。

しかし極端な都市への人口集中により港北一帯は乱開発の危機にさらされることになったのです。そこで生まれたのが都市と農業の調和をめざす港北ニュータウン建設計画でした。しかしそれは先祖代々この地に住む人々に大きな決断を迫る計画でもありました。

＜金子さん＞
とにかく未知数の問題でしたから、潜在的によるところはやはりそれ以外にないとは自分は判断していました。
＜聞き手＞
他の方たちはどのように判断されていたのでしょうか。
＜金子さん＞
夜中にやってきたり農協の観光バスなどでちょっとお酒を飲んだりしているときに、うちの連合会会長はどうやらニュータウンで土地を売るらしいと、町会長にしておいたら我々は生活に迷ってしまうからやめさせなければならないというようなことが方々ででてきていました。それを言ってくる人もいましたね。横浜市から昭和 40 年当時 700 万円くらいもらっているらしいという噂話もでてきました。そういう話は頓着ありませんし一切そういうお金は一円ももらっていないし自分自身のボランティアだと思ってやっていますので気にしていませんでしたし、そういうのに答える必要はないと。そのうちに色々な会議を重ねていくうちにそういう話はでなくなりましたが。
＜聞き手＞
みなさんわかってきたということで。
＜金子さん＞
いずれにしても将来を考えて時の展望をしながら、ここで踏み切らなければ。ただ一番心配なのは一人でも落伍者をなくこの事業を貫通しなければならないということが一番心の中に残っておりましたが、結果的に毎晩のように昭和 42 年から買収の契約をするまで。
＜聞き手＞
何年間くらい？
＜金子さん＞
約３年間日夜、各町の集会場に行きまして。

＜聞き手＞
　毎日毎日？
＜金子さん＞
　毎日毎日徹夜です。それは大騒ぎでいけないことがあると呼びつけられて、しっちらかれるし。結局誠意が通じたのか皆さん仕方がないからついて行かなければならないと、実績を振り返って信頼してくれたのではないかということではないでしょうか。おかげさまで火の雨を降らせずに中川村の皆さん全部の同意を得たのは昭和45年４月、出納閉鎖の前ちょうど税法が改正されるのでとびこみで私が港北ニュータウンの６５％にあたる面積の用地買収に皆さんから全部委任状をとりました。
＜聞き手＞
　その時どのようなお気持ちでした？
＜金子さん＞
　どのような気持ちと言われましても、やってみなければわからない、弱気になるとできるかどうかですが、結局皆さんが判断するのは当たるも八卦当たらぬも八卦で、しかし気持ちとしてはこの道は絶対乗り越えなければならないとこのふるさとは再起できないだろうと。やはり代々先祖が守ってきた土地が現代になってもどう立ち上げていくかと言うことは一番自分たちがよく知っているわけですから。時の流れをそれにどのように組み合わせていくか。幸いにして色々な経緯がありましたが全部まとまって感無量でした。

　土地区画整理事業が建設大臣により認可されたのは、横浜市が港北ニュータウン計画が発表されてから９年目の昭和49年でした。建設事業が正式に第一歩を踏み出すことになったのです。しかし折から吹き荒れていたオイルショックの風は工事計画にも黒い影を投げかけていました。

＜聞き手＞
　建設の工事が延期となったときは、これもまた一つの山でしたでしょうか。

＜金子さん＞

これはもう青天の霹靂でした。ただそれ一筋を願いに皆さん裸になっていただいたわけですから。会合の時にどうしても昭和 55 年外資が難しいから延期したいとこういう話がでて、冗談じゃないと。命をかけてやってきてまだ日があるのに今からさじを投げられては大変なことだと。ふるさとには帰れない、住民に対してなんと言い訳ができるのかということで。私どもは大変な問題だと言うことで昭和 55 年完全遂行ということで、白ハチマキとタスキで中川村 500 の農家に動員をかけまして、まず横浜市庁舎にむしろ旗をたて、横浜市長にもし完遂できないのならば、約束が違うので延期する分においての生活保障をせよと。昭和 55 年の開通をめどに皆さん生活を守ってきているということですので、二者選択をとれということでしたが、どうしてもできないということでした。結果的に 7 億 8000 万というお金をもらって、今度は財団法人として我々の生活再建だけではなく新しい人達が早く入っていいまちをつくるための施策についても財団という名でそこから新しいまちづくりにも予算をつかっていこうと。我々の生活を守ると言うことは新しい開発した都市の人達が味方になり新旧が一体になって相補ってもらおうと。やはりこれはいわゆるスプロール化、心のスプロール化を防止するという意味でそれが生活対策だと思います。

昭和 58 年港北ニュータウンを横断する幹線道路、新横浜～元石川線が開通。昭和 62 年には市営高速鉄道 3 号線新横浜～あざみ野間の起工式が行われニュータウンは一歩一歩確実な歩みを重ねてきました。

＜聞き手＞
　ここまでの道のりは大変でしたが、あと何年くらいでは完成するというように？
＜金子さん＞
　あと 10 年で一応名実に近づけないといけないですね。
＜聞き手＞
　どのような 10 年で。
＜金子さん＞
　昼間人口が多くていわゆる観光都市、港北ニュータウンのまちに行ってみたいなと。住宅環境がいいから行ってみたいなと。大仏のような文化財だけではなく生きた文化財がいかに安心して楽しく生活しているのか、それには多摩丘陵と 21 世紀の文化が同居する吹き抜けですね。
＜聞き手＞
　そうすると金子さんが小さいときに育った武蔵野の原野の、そこに住む人々の心がそのまま 21 世紀の新しいまちにみたすということですね。
＜金子さん＞
　最初にお話ししましたが、私どもは楽しくめだかやウサギを追っていましたが、こういう健全な心の喜びを 21 世紀の近代都市の中でも共通したものがここに皆さんに受け止めていただければ、ニュータウンは大変遅れたが、生涯を棒に振ってやってきましたが何よりの喜びです。

＜聞き手＞
　どうでしょうか。ずっと一生懸命自分の人生をかけてやってきて、自分をほめたいような気持ちというものはありますでしょうか。
＜金子さん＞
　出発して皆さんを説得しても悔いてはいないです。その当時はさんざん怒られ下を向いていましたが、ニュータウンだけではなく農地改革、土地改良など今までにそういうことを 30 年やってきていますから、経験を通して自信をもったわけでニュータウンに出発して皆さんを説得する気持ちを腹の底で決めたことは、今になっても全然変わっていません。

＜聞き手＞

ご自身の未来の夢、こんなことをしたいな、どのようなことがありますでしょうか。

＜金子さん＞

少年青年の頃の夢は文学にあこがれていました。たまたまこういう事業に終身をかけてきまして健康ですのでニュータウンの挿話というものを一つ、役職を離れてゆっくりと悠々と書いてみたい、本当のニュータウンの生い立ちを新しく住む人達にも問いかけてみたいと思います。

港北ニュータウンとともに歩んで 27 年。多摩丘陵の自然と 21 世紀の文化が調和し誰もが住みたくなるまちにしたい、それが金子保さんの何よりの願いなのです。

（8） 都筑区の誕生

新しく誕生する都筑区の概要を紹介しています。（11 分 5 秒）

都筑区誕生。平成６年 11 月６日。私たちの新しいふるさと、都筑区が誕生します。都筑区は横浜市で人口増加の著しい港北区・緑区においてきめ細やかな行政サービスを提供するため行政区再編成により誕生する新しい区です。

異なっている行政区域にまたがってできる私たちのまち都筑区について紹介しましょう。都筑区は横浜市の北端に位置し北は川崎に接し南は鶴見川が流れ、東西を第三京浜道路、東名高速道路が走る起伏の多い緑豊かな丘陵地帯です。また区内のほぼ中央を早渕川が流れる自然豊かな区です。

今回の行政区再編成により新しく誕生する４区の区名は市民代表、市会議員、有識者などからなる区名選定委員会を設置して選定にあたりました。港北と緑の区名は現在の区役所が所在するＡ区Ｂ区が引き継ぎＤ区Ｃ区名については市民公募を行いました。よせられた約 1 万 7000 件の中からＤ区は都筑が選定され昨年 12 月市会で正式に決定されました。都筑の名前は古くは奈良時代から使われこの地で横浜市に編入される昭和 14 年まで都筑郡として使われていた名前です。この歴史ある名前を将来に向けて大切に継承するとともに新しいふるさととなる区づくりを都を筑く想いですすめていく、そんな願いも込められています。

それでは区内の様子を紹介しましょう。区の面積の半分近くを占めている港北ニュータウン地域は住宅、業務、商業、文化など様々な機能が調和した新しいまちづくりが進んでいます。平成７年度末に基盤整備が完成する予定であり、

人口定着がさらにすすむとともに社会のニーズに対応した活気あるまちづくりがすすめられています。農業専用地区に指定された農地のほか、農用地、生産緑地などの農地があり、ここでは新鮮な野菜を中心とした農業が営まれています。またこれらの農地は緑のオープンスペースとして私たちの生活に潤いを与えています。鶴見川沿いの工場地域、ここでは300社近くの事業所、工場が立地しており市内有数の内陸工業地帯が形成されています。この他企業の本社施設や研究所、研修所、教育施設が多数進出し技術研究や人材育成がすすめられています。

新しく発展していく都筑区、その中に歴史をしのばせる文化財などが数多く残されています。弥生時代中期の集落や共同墓地であった国指定の史跡大塚歳勝土遺跡、その周辺を楽しく遊びながら歴史にふれあえる公園として整備しています。中世の城郭の傑作といわれる茅ヶ崎城址や国指定の重要文化財である江戸時代の建築物も残されています。

私たちの新しいふるさととなる都筑区のビジョンを紹介しましょう。横浜市は2010年を目標年次とする総合計画ゆめはま2010プランを策定中です。3万人アンケートをはじめ多くの市民の意見要望をお聞きし将来の望ましい市民生活やまちづくりをすすめていく理念や施策の方向、長期ビジョンを昨年 12月に確定しました。

都筑区は区の発足に先立って平成4年度から区民アンケート中学生高校生の作文コンクール、懇談会、シンポジウムなどを開催して幅広い区民の意見に基づき都筑区の将来像をとりまとめました。この将来像の中で都筑区のめざす目標を、都市の快適性、人のぬくもりを実感する新しい生活文化都市と定めました。都筑区はこの目標に向かって区民行政が一体となって区づくりをすすめていきます。

都筑区の中心としてにぎわいと活力あるまちづくりをめざすタウンセンターをみてみましょう。横浜市の副都心として様々な都市機能の集積をすすめながら商業、業務、文化、サービスの拠点となるまちづくりをすすめていきます。

現在平成７年３月の竣工に向け都筑区総合庁舎が建設中です。区役所、保健所、図書館、公会堂、消防署などが収容される地下１階地上６階建ての市内で最大の総合庁舎となります。

センター南駅、センター北駅では将来大勢の人々が行き交うタウンセンターの玄関にふさわしい駅前広場が建設中です。駅前広場の地下に大型の公共駐車場を整備しています。環境の保全や省エネルギーさらに景観にも配慮した共同埋設システム、地域冷暖房システムの工事がすすんでいます。

横浜の歴史資料を保存公開する横浜市歴史博物館は平成７年１月の開館に向けて準備をすすめています。市民文化ホールは多彩な芸術文化の創造の場として計画しています。

タウンセンターに接する区内最大の総合公園は緑豊かな自然を最大限に活かしながら区民の交流の場となる公園として整備しています。

都筑区誕生に向け区民の様々な活動が始まっています。

新しい区名を祝う記念式典やフレッシュ都筑カーニバルが今年１月に開催されました。大勢の区民が参加し区の発足に向けて大いに盛り上がりました。また昨年９月には自治会町内会組織の再編成に向けて区連合町内会設立準備会が発足し今年４月都筑連合町内会自治会が設立されました。

身近なところでも多彩な区民の活動が見られます。新鮮な野菜や卵などを直売する朝市が地元の農家の人たちによって定期的に開かれています。公園の清掃や自然環境を保護育成する公園愛護会活動、中川駅、仲町台駅の駅前まちづくりをすすめる活動、地区センター、スポーツ会館、プールなどでも文化やスポーツなどの活動や交流が活発に行われています。

新しい区にふさわしい施設が計画されています。国際大会ができる室内水泳競技場の建設が決まりました。横浜市の北部地域を対象とした地域中核総合病院の整備も決まっています。この他区民が身近に利用できる様々な施設の建設

もすすめていきます。

昨年３月市営地下鉄３号線が開通し横浜都心部に直接アクセスできるようになりました。また横浜環状鉄道の実現に向け検討をすすめています。便利な

交通網の整備とともに商業施設の進出もはじまり、緑豊かな住環境の中快適な生活空間が広がっています

都市の快適性、人のぬくもりを実感する、新しい生活文化都市、都筑区のスタートは11月６日です。

（9） 生活対策協会設立15周年記念式典

主催者、来賓挨拶式典の様子が映されています。(22 分 42 秒)

開会の挨拶

生活の安定向上、さらには地域住民の有望、地域文化の創造、コミュニティづくり、様々な事業を展開をして参ったところでございます。港北ニュータウン基盤整備は着工以来、22 年目を迎え完成をしたわけでございますが、この間、地権者をはじめ、横浜市、住宅都市整備公団のご努力によりまして、昨年に換地処分がなされました。この 3 月をもって登記を完了するという大きな節目を迎えたことになります。港北ニュータウンが本格的なまちづくりにきている今、世の中の環境は非常に皆様もお感じになっておりますように、厳しいものがありまして、景気の回復の兆しも決して明るいものとは申せないということが言えると思います。しかしながらこの壮大なニュータウン建設事業を数多くの難関を、皆様の英知と信頼をもって解決し不況を乗り越えてきた実績をもってすれば、必ずや後世に残る立派なニュータウンが実現をみるものと確信をいたしております。諸事業を展開し誇りあるふるさと、港北ニュータウンのまちづくりの努力をしてまいりたいと考えております。バブルがはじけました今日、今後の協会の運営には多くの困難が予想されますが、今後とも当協会の発展のために本日ご出席の関係の方々の絶大なご支援を賜りますようにお願いを申し上げます。ご健勝とご繁栄を祈念いたしまして私の開会の挨拶とかえさせていただきます。ありがとうございました。

横浜市挨拶

小椋助役が挨拶すべきところですが、市会中ということもありまして挨拶を預かってきておりますので、私の方から代読させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。財団法人港北ニュータウン生活対策協会様、本日ここに15周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。ご臨席の皆様には平素から港北ニュータウン建設事業をはじめ、横浜市各種事務事業にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。また本日はご招待をいただいておりましたが、残念ながら都合がつかず欠席とさせていただきます。心からお詫び申し上げます。貴協会が昭和56年2月に設立されて以来、地域振興を目的とした各種コミュニティ事業や生活再建対策事業等に積極的に取り組まれてきたとともに、地権者皆様の熱意とご労苦によりまして、22年の長きにわたった土地区画整理事業が昨年9月に竣工いたしましたことに感謝申し上げる次第です。今日では本市北部地域での広域的な副都心であるタウンセンター南北地域を中心に大型商業施設の建設等様々な施設の整備が進み、次第に町の熟成が図られてきております。港北ニュータウン地域内に住む人々が8万人となる中で、日吉～中山間の高速鉄道4号線の建設につきましては、本年度内に免許申請を行い、来年度の早い時期に事業認可が得られる見込みであり、これに伴い地域内の開発がいっそう促進されるものと考えられます。今後とも引き続き21世紀に向けた活力あるまちづくりに努力していく所存であります。貴協会の役割は地域の人々にとって大いに期待されているところであり、経営相談、開業助成や広報活動等においてますます充実、発展されますことを祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。平成9年2月18日横浜市助役小椋進。どうもありがとうございました。

住宅公団挨拶

ただいまご紹介いただきました住宅整備都市公団広報開発局長の斉藤でございます。生活対策協会の設立 15 周年を記念いたしまして、一言土地区画整理事業の施工者といたしましてご挨拶を申し上げます。港北ニュータウン生活対策協会はニュータウンの円滑な発展を図るため、この地域に住む人々の融和を目的として地域文化の創造、コミュニティづくり、さらにはニュータウン建設事業に参画されました住民の生活再建の対策事業を行い、地域住民の生活の安定と向上、住みよいまちづくりに寄与するため公益法人として設立された訳でございますが、設立以来今日まで具体的な活動を若干申し上げさせていただきますと、ふるさとづくり事業などのコミュニティ事業、居住環境整備事業、また土地活用、都市経営調査などの生活再建対策事業、センター地区の事業化促進のための啓蒙活動等、多岐にわたって公益的事業の面から、この港北ニュータウン事業の推進に大きく貢献されたところでございます。私たち土地区画整理事業者といたしまして、心から感謝を申し上げますとともに深く敬意を表するものでございます。私たちが進めて参りました公団が施工者として進めて参りました土地区画整理事業は先ほどまつざき部長のご挨拶もございましたが、おかげさまをもちまして昨年 9 月に換地処分の公告をいただきまして基盤整備の完了をみたところでございます。港北ニュータウンのすがたを公園、緑道等によります骨格ができあがり緑豊かな空間が形成され、すでに約 8 万人の方がお住まいになっておられますが、これからこのニュータウンが横浜の新しい副都心として、住む人が誇りを持ち訪れる人が喜びを感じられるようなまちにするために、この生活対策協会が今後果たされる役割は極めて大きいものであると思います。期待するところ誠に大きなのもがあると考えます。当協会のますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。どうもおめでとうございました。

乾杯の挨拶

港北ニュータウン生活対策協会創立 15 周記念を迎えまして、ご一同様本当におめでとうございます。私はこの記念式典にあたりまして、まずこの会を 15 年のすばらしい成果を皆さんとともにお祝いしていただくわけでございますが、同時にまたこの港北ニュータウンが今日までこのような成果をあげてまいりましたことにつきまして、あらためて皆さんとともに、この事業の今日までの成果につきましてお祝いを申し上げますとともに、今日こうしてたくさんの皆様がお出かけをいただきまして、この協会の式典のお祝いをしてくださるとともに、ご案内のとおりニュータウン事業は一応形の上では基盤造成は終わったかと思うわけでございますが、この発想の原点からこのニュータウンの目的は、ご案内のとおり現在センターにしてもまだ無人地帯でございます。30 万の人口のすばらしい未来に悔いのないまちにするためには、まだまだようやくまちづくりの途についた、こういう状況でございます。この式典を大きな契機といたしまして、さらに関係ご来席の皆様方の旧に倍するご指導ご鞭撻をいただかなければ、このニュータウンの都心をふくむ状況は将来に大きな悔いを残すであろうということを、私どもは憂いております。新たなこの状況に対して生活対策協会も新たな目的に向かって、さらなる展開をしていかなければならないと、このように考えております。そういう意味で今日ご来席をいただいた皆様のさらなるご健勝とご繁栄と同時に、今までよせられましたであったニュータウンに対するご理解を乗り越えていっそうのご指示ご鞭撻をいただくことをお願いをいたしまして協会創立 15 周年の会を高らかにあげたいと思います。乾杯の発声でよろしくお願いいたします。どうぞ、杯を高らかに、おめでとうございます。乾杯。ありがとうございました。

式典会場内外の様子の映像(約 10 分)

閉会の挨拶

お忙しいところをこうして大勢の方にお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。先ほど入り口のところで出迎えをしたときには、この方にもお世話になったのだなということで、やはりなつかしい人が大勢見えていただきまして、本当に今日は 15 周年記念に喜びを抱いているわけでございます。とにかく財政、そして今の時代に非常にこの協会は苦しい立場に追い込まれているということは、みなさんもご存じだと思います。

そこでこの協会がなおいっそうの繁栄をし、そしてみなさんに役に立つような会にしていくには今日のご出席をいただきました皆さん方のなおいっそうのご支援をいただかなければ、いきづまったような感じさえしているわけでございますので、どうかみなさんご協力ご支援をいただくようお願いして閉会のご挨拶としたいと思います。ありがとうございました。

司会

副理事長から今日のお集まりの御礼を申し上げさせていただきました。以上をもちまして財団法人港北ニュータウン生活対策協会の創立１５周年記念の祝賀を終わらせていただきたいと思います。本日はお忙しいところご来訪いただきまして誠にありがとうございました。なおホールをお出になります際、正面の左側の出口からお帰りいただきたいと思います。お出になったところでささやかでございますが、記念の品を用意させていただいております。どうぞお持ち帰りになりますようお願いします。今日はお忙しいところお集まりをいただきまして大変ありがとうございました。どうぞ気をつけてお帰りになっていただきたいと思います。ありがとうございました。

式典終了後の様子の映像

(10)横浜市営地下鉄4号線開通記念式典

2008年（平成20年）3月29日北山田駅で行われた横浜市営地下鉄4号線（グリーンライン）開通記念式典の様子が映されています。（約13分41秒）

港北ニュータウン建設事業を推進してきた人々にとって、2008年（平成20年）3月30日の横浜市営地下鉄4号線開通は、港北ニュータウン建設における最後の基幹事業完成と認識しており、開通を祝う式典は、地元有志が実行委員会を設置し、多くの人々の賛同、参加を得て盛大に実施されました。

式典資料

1　配付資料

（1）市営地下鉄グリーンライン開通記念式典　横浜開港150年記念式典

（2）グリーンライン北山田駅開通記念イベント・桜まつり

（3）港北ニュータウンの歩み

（4）地下鉄4号線開通記念マップ

（5）都筑の足跡　横浜開港150周年記念　横浜市営地下鉄4号線開通記念

（6）写真で見る　都筑の景観50

2　報告書

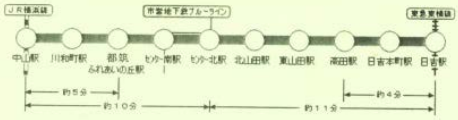
3　会場写真

1　配付資料

（1）市営地下鉄グリーンライン開通記念式典　横浜開港 150 年記念式典

祝 市営地下鉄グリーンライン開通記念式典

横浜開港１５０周年記念式典



市営地下鉄４号線開通記念イベント実行委員会

市営地下鉄４号線開通記念祝典次第

日時：　平成２０年３月２９日（土）
　　午後　１時　～　３時
場所：　北山田駅前イベント会場

1．第一部　記念式典（PM1:00~PM2:00）

(1)　開会のことば
　実行委員会事務局

(2)　主催者挨拶
　実行委員会委員長
　実行委員会名誉会長

(3)　来賓祝辞
　① 都筑区長
　② 都筑連合町内会自治会長
　③ 都市再生機構住宅用地販売部長
　④ 横浜市交通局局長

(4)　記念樹植樹式

(5)　閉会のことば
　実行委員会副委員長

2．第二部　祝賀会　（PM2:00~PM3:00）

(1)　開会のことば
　実行委員会副委員長

(2)　挨　拶
　①実行委員会名誉副会長
　②前横浜市副市長

(3)　鏡割り

(4)　乾　杯
　㈱横浜都市みらい代表取締役

(5)　余　興
　①南山田町会囃子部　囃子・獅子舞
　②北山田踊り会　　カッポレ踊り
　③木田林孝昇『木田流』津軽三味線

(6)　閉会のことば
　第一委員会委員長

お　礼　状

早春の息吹きを感じる年度末、公私ご多用中、中川地区同志会主催の横浜市営地下鉄４号線開通祝賀会・横浜開港１５０周年記念に御出席賜り厚く御礼申し上げます。

港北ニュータウンの用地買収、開発が開始され約４０年の歳月が流れ、区画整理事業の約束でございました横浜市営地下鉄４号線が明日開通されます。これによって第一地区・第二地区が同一で理想的な環境整備が漸く収束と成りました。

横浜市・都市再生機構・同志会の歩みは決して速かったとは申せませんが、素晴らしい港北ニュータウンの未来が開けて参りました。これも本日ご出席頂きました方々のご支援・ご指導の賜であり心より御礼申し上げる次第であります。

お招き致しましても、ささやかな宴で失礼致しましたが、皆様の元気なお姿に接し大変嬉しく又満ち足りて居ります。

御出席の感謝のお礼と今後のご指導ご鞭撻の程役員一同宜しくお願いし紙上にて失礼ですが、お礼のご挨拶とさせて頂きます。

「ご芳志頂きました方々には重ねて厚く御礼申し上げます」

平成２０年３月２９日

祝典・祝賀会実行委員長　　男全冨雄
中川地区同志会　祝賀会　　役員一同

市営地下鉄4号線開通記念イベント実行委員会名簿

委員長	男全冨雄
副委員長	飯田恒雄
副委員長	栗原毅
副委員長	小泉俊男
副委員長	金子三千男
会計	高橋良雄
事務局長	大嶋珪治
事務局次長	鏑木泰
会計監査	齋藤一雄
会計監査	男全由治

第1委員会	第2委員会
委員長　宮本誠一	委員長　今西稔
副委員長　織茂安二	副委員長　斉藤孝志
会計　籾山功	会計　田嶋初乃
委員　飯塚正吉	委員　飯塚洋勝
委員　小泉時雄	委員　中島顕一
委員　安藤恵正	委員　山口栄一
委員　三原淳	委員　芦川章子
委員　飯塚秀夫	委員　金子英一
	委員　小笠原正勝
	委員　市川満男
	委員　金子博司
	委員　出川春男
	委員　吉田和男

第3委員会	第4委員会
委員長　織茂力雄	委員長　栗原貞夫
副委員長　安藤晴雄	副委員長　小泉廣之
会計　長谷川栄	会計　平野勝一
委員　男全三津夫	委員　小泉勝吾
委員　吉田義章	委員　石井省輝
委員　漆原一彦	委員　下中英次
委員　大浦昭彦	委員　遠藤久正
委員　織茂清次	委員　久高晋治
委員　古橋義将	委員　小泉正雄
委員　清水正紀	委員　安藤隆男
委員　小泉晴	委員　石原導
委員　市川広司	
委員　今西高雄	
委員　川田正次	

市営地下鉄４号線記念式典協賛各社

『　記念品について　』

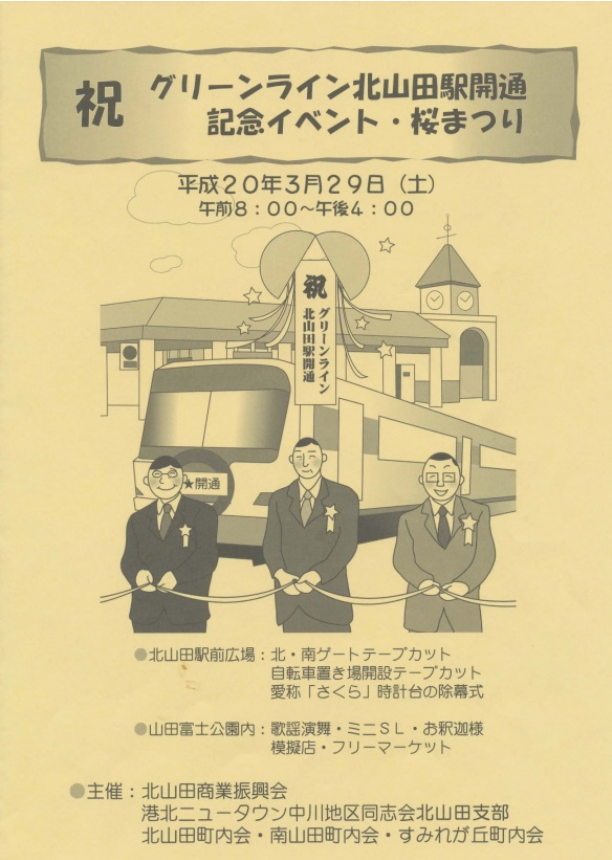
お手元にお渡しさせて頂きました記念品は都筑区内に
進出され盛業中の企業からご恵贈いただきました。

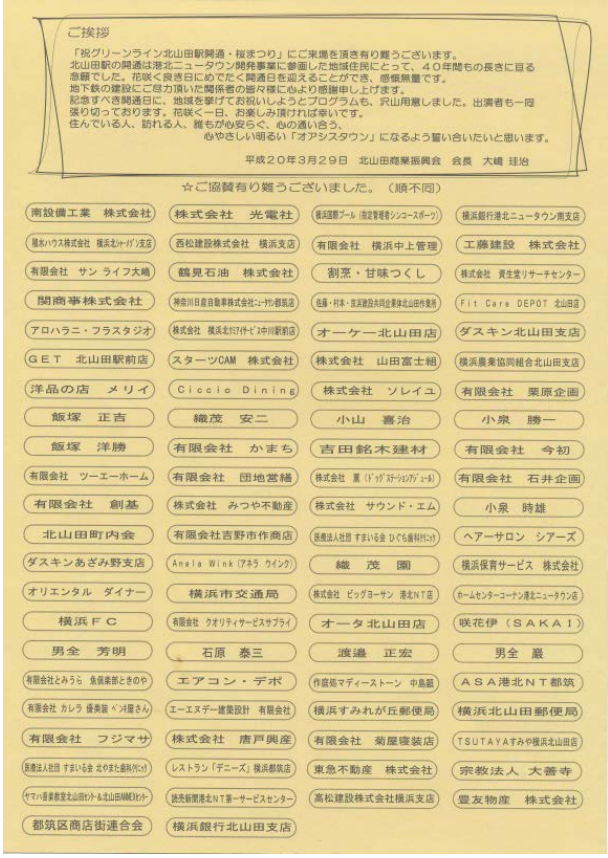
協賛各社	順不動	協賛品
1. アオキインターナショナル	様	手提げバック　(300 個)
1. 山崎製パン株式会社	様	ランチバック　(1000 個)
1. 横浜農業協同組合	様	花の苗　(300 鉢)
1. 横浜銀行	様	タオル　(300 本)
1. 横浜信用金庫	様	ボールペン　(350 本)
1　株式会社横浜都市みらい	様	樽酒
1. 有限会社吉野市作商店	様	日本酒　(16 本) ワイン　(6 本)

尚、祝宴会場のテント及びテーブル等のセットは
(株) 阪急　様にご提供頂きました。

実行委員会から	鉄道マップ
生活対策協会から	写真集

（2）グリーンライン北山田駅開通記念イベント・桜まつり





（３）港北ニュータウンの歩み

港北ニュータウンの歩み

開発前の姿

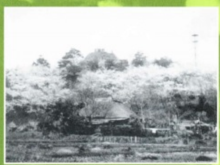
港北ニュータウンの地域は、なだらかな丘陵と谷戸には水田が広がるのどかな農村地帯でした。谷戸の道路に沿って1千戸、5千人ほどの人々が住み、村で行事のある時には誰もが楽しみに総出で手伝う、人情味のある地域でした。

昭和30年頃春の農作業(北山田交差点付近)

昭和30年頃 農家のたたずまい(北山田)

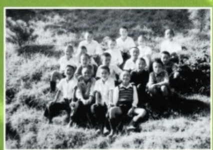
昭和39年頃 稲刈り(茅ヶ崎東2丁目付近)

昭和36年頃の茶摘み風景



戦前の山田富士

昭和13年都筑郡連合青年団体育大会での優勝記念写真



昭和29年頃 草原で遊ぶ子供たち

昭和40年～昭和51年

昭和46年中川住民協議会設立総会

昭和51年1月スケジュール延伸に対する抗議集会

仮設道路の建設

昭和51年港北ニュータウン開発対策協議会第6回総会
（港北ニュータウン事業推進連絡協議会第1回総会）

年 月	主 な 出 来 事
昭和40年2月	港北ニュータウン建設事業、高速鉄道建設事業など横浜市の「6大事業」が発表されました。
昭和41年7月～	横浜市、日本住宅公団（現都市再生機構）による港北ニュータウン計画についての地元説明が始まりました。（乱開発の防止、都市農業の確立、市民参加の街づくりの三つの基本理念が掲げられました）
昭和42年6月	地元としてニュータウン開発について話し合い、態度をきめるため、中川、都田、山内、新田の4地区代表による「港北ニュータウン開発対策協議会」が発足しました。
昭和44年5月～	公団による用地買収が始まり、356haの買収が行われました。
昭和44年5月	「土地区画整理事業を施行する区域」などが都市計画決定されました。
昭和47年8月	地元が自らの問題として区画整理や税制などの研究をする「港北ニュータウン建設研究会」が発足しました。
昭和49年8月	土地区画整理事業の事業計画が建設大臣の認可を受け、造成工事が始まりました。
昭和50年2月	土地区画整理審議会が発足しました。（委員数は第1、第2地区とも30名でした）
昭和50年11月	公団が造成工事の概成時期を55年から62年に延伸するスケジュールの見直しを発表しました。 地元は猛反発し、中川地区は翌年の1月から2月にかけ市、公団に一大抗議行動を展開しました。（54年6月に62年概成スケジュールは合意されました）
昭和51年3月	センター用地など「特別な用地」への換地希望者の申し出調査が始まりました。
昭和51年11月	事業の推進を図るため「対策協議会」を改組し、地元、市、公団の3者で構成する「港北ニュータウン事業推進連絡協議会」が発足しました。

昭和52年～昭和59年

昭和54年頃 造成工事の模様
（新横浜元石川線と中山北山田線との交差点付近）

昭和58年6月 新横浜元石川線開通

みずきが丘団地

昭和59年頃の荏田地区の様子

荏田近隣センター

年 月	主 な 出 来 事
昭和52年10月	第2地区で仮換地の供覧が始まりました。（第1区は昭和53年2月）
昭和54年 3月	早渕川ほかの河川改修工事が完了しました。これによって、造成工事が本格的に行えるようになりました。
昭和54年 7月	推進協議会にバス、地下鉄などの交通に関わることを検討する「交通問題委員会」が設置されました。
昭和58年 3月	第2地区の荏田地区約100haで、工事着手以来7年余を経て最初の供用開始が行われました。
昭和58年 6月	第2地区を東西に貫通する新横浜元石川線が開通しました。
昭和58年 8月	荏田地区で集合住宅の入居が始まりました。入居に合わせ、小、中学校の開校、近隣センターの店舗がオープンし"街びらき"が行われました。
昭和59年 7月	地下鉄3号線の早期実現に向け、地下鉄の構造を地下から高架に変更することとなりました。

昭和60年～平成4年

平成2年頃地下鉄3号線工事（タウンセンター）

平成2年 日吉元石川線開通式典

リコー（研究所）

平成3年頃の造成工事の様子（南山田、北山田付近）

平成3年 タウンセンター開発推進協議会

年 月	主 な 出 来 事
昭和60年7月	土地利用の見直しと利用促進を検討するため、推進協議会に「土地利用特別委員会」が設置されました。
昭和61年3月	港北ニュータウンを住宅中心の"ベットタウン"から住み、働き、学び、憩う「多機能複合都市」へと転換することが決まりました。
昭和62年2月	地下鉄3号線の新横浜～あざみ野間の工事が始まりました。
平成2年 3月	第1地区の中川駅周辺で、集合住宅の入居に合わせ、小、中学校が開校し"街びらき"が行われました。
平成2年 8月	第1地区の骨格である日吉元石川線が開通しました。
平成3年 6月	タウンセンターの建設促進と開発ルールを検討するため、「タウンセンター開発推進協議会」が発足しました。

平成5年～平成9年

横浜市営地下鉄3号線開通式

プロムナード仲町台

都筑区総合庁舎

港北ニュータウン竣工式

都筑インター

横浜市歴史博物館

年 月	主 な 出 来 事
平成5年3月	地下鉄3号線ーブルーラインーの新横浜～あざみ野間が開通しました。ニュータウン内には4駅が開業し、横浜を南北に縦断する動脈が完成しました。
平成6年11月	行政区の再編が行われ、港北ニュータウンはそれまでの港北区、緑区から分区され、あらたに「都筑区」が誕生しました。
平成7年 1月	横浜市歴史博物館がオープンしました。
平成7年 4月	都筑区総合庁舎が完成し、業務を開始しました。
平成7年 4月	第三京浜道路の「都筑インター」が開設され、ニュータウンへの直接乗り入れが可能になりました。
平成8年 2月	タウンセンターの一体化に向けた「港北中央地区土地区画整理事業」の事業計画が認可になりました。
平成8年 9月	第1、第2地区の基盤整備が完了し、認可以来22年を経て土地区画整理事業が換地処分を迎えました。
平成8年11月	港北ニュータウン事業推進連絡協議会第11回総会が開かれ、ニュータウンの更なる発展を決議して協議会を解散しました。
平成9年 3月	第1、第2地区土地区画整理事業の竣工式が多くの関係者の出席のもと催されました。

平成10年～平成19年

港北東急ショッピングセンター

ショッピングタウンあいたい

横浜国際プール

都筑阪急・モザイクモール港北

ノースポート・モール

MINAMO(みなも)

年 月	主 な 出 来 事
平成10年 4月	第2地区タウンセンターに「港北東急百貨店ショッピングセンター」がオープンしました。
平成10年 4月	センター北駅に「ショッピングタウンあいたい」がオープンしました。
平成10年 7月	第1地区の山田地区に夏季国体の水泳競技場となる「横浜国際プールウォーターアリーナ」がオープンしました。
平成12年 3月	第1地区タウンセンターに「都筑阪急・モザイクモール港北」がオープンしました。
平成13年11月	地下鉄4号線日吉～中山間の工事が始まりました。
平成17年 6月	港北中央地区の基盤整備が完了し、換地処分を迎えました。
平成19年 4月	第1地区タウンセンターに「ノースポート・モール」がオープンしました。
平成19年 7月	中央地区の共同利用街区に温浴施設を持つ「MINAMO(みなも)」がオープンしました。

お祭り・・昔と今

昭和33年頃山田神社大祭

昭和30年頃茅ヶ崎杉山神社の祭礼

港北ニュータウンまつり(第1回)

区民祭

区民祭

区民祭

平成19年タウンセンター祭

そして…**平成20年3月30日**
地下鉄4号線ーグリーンラインー開通。

4号線工事(北山田駅)

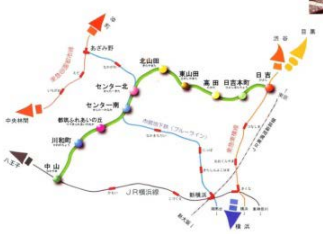
開業間近の北山田駅

車両運搬

開業間近の都筑ふれあいの丘駅

グリーンライン習熟運転

グリーンライン

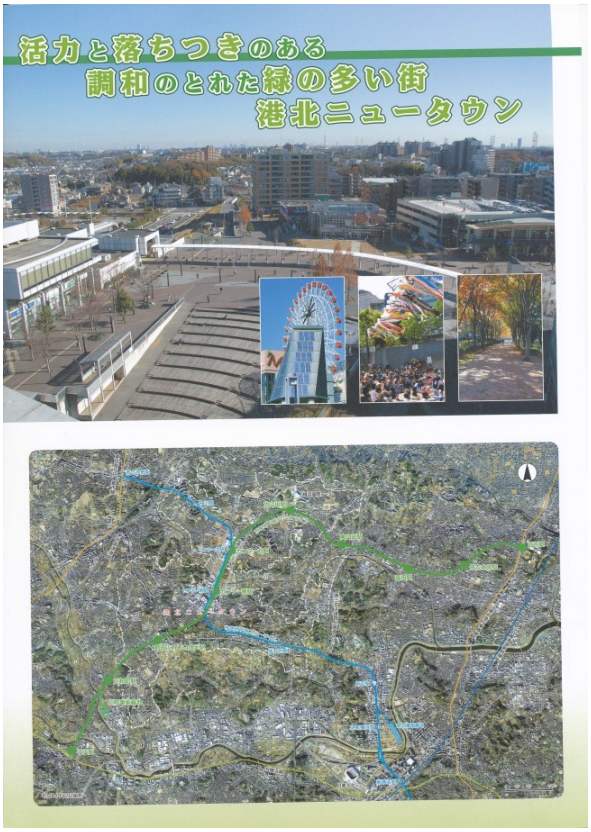


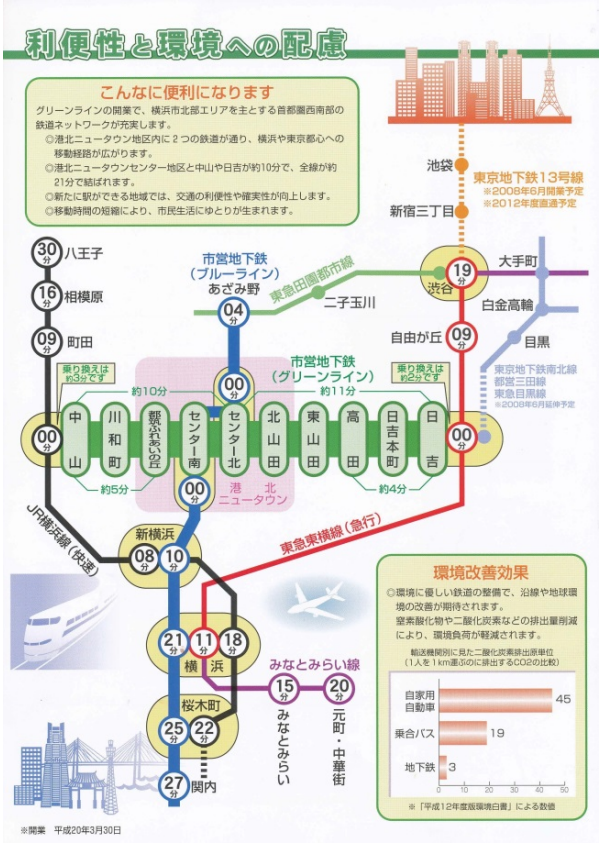
平成20年3月
地下鉄4号線グリーンラインの開通を祝う会

資料提供 横浜市 都市整備局、交通局
都市再生機構 東日本支社

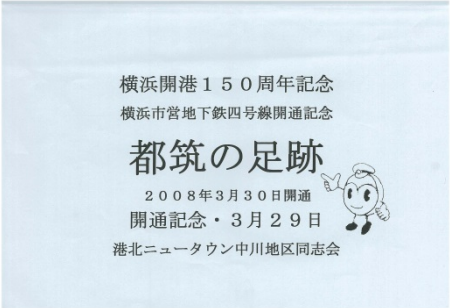
発行協力 株式会社横浜都市みらい

（4）地下鉄 4 号線開通記念マップ





（５）都筑の足跡　横浜開港 150 周年記念　横浜市営地下鉄 4 号線開通記念



港北ニュータウンまちづくり資料
港北ニュータウン一般書リスト掲載

（６）写真で見る　つづきの景観 50

港北ニュータウンまちづくり
港北ニュータウン一般書リスト掲載

2　四号線実行委員会事業報告

Ｈ２０．５．１２

祝四号線実行委員会事業報告

港北ＮＴ建設事業４０年の念願、横浜市営地下鉄４号線（グリーンライン）めでたく開通（Ｈ２０．３．２９（土））しました。

記念すべき開通日「地域を挙げてお祝いしょう」と港北ＮＴ中川同志会（記念委員会）の支援を受け、同志会山田３支部（南・北・東）が発起人となり準備会を発足　関連駅同志会（牛・中）都筑区連合町会（山田３町・関連駅町内会・都筑区商店街連合会（北山田商業振興会・関連駅振興会））代表者で組織を構成し「祝４号線実行委員会」を設立（１８．４．２７）した。

実行委員会組織を役員会（全体計画作成・調整）委員会（１～４委員会イベント計画起案）会議は、分科会・正副委員長会・全体会　イベント計画実践に向け２年間に亘り協議を重ねてきました。

肝心要の地下鉄の開業日定まらず（Ｈ１９年度の開通日は？）横浜市より待望の発表（Ｈ２０．１．７）がありました。開業日は（Ｈ２０．３．３０（日））と聞き安堵した。のもつかの間、あと２ヶ月余りイベント開催日に向け拍車がかかりました。

記念すべき開通日、桜も満開、お花見日和の快晴「祝市営地下鉄４号線開通記念、式典・祝賀会」は（Ｈ２０．３．２９(土)）会場は北山田駅前広場イベント会場で開催された。
第一委員会（記念式典、記念植樹式）第二委員会（祝賀会・演舞演奏会）と綿密な計画のもとに実行して頂き同志会会員をはじめ　地下鉄開業にご尽力を頂いた関係各庁をはじめ、各種団体・企業団体の代表等多数の出席を頂きました。ご来賓の祝辞、懇談を通し４０年の長きに亘る幾多の苦難を経ての開通、喜びと感謝の気持ちでいっぱいでした。

第三委員会は沿線各駅のイベント開催となりました。関連駅の　商業振興会（商店街）・同志会・町内会と各種団体等共催で駅広場、公園を会場としてダンス・パレード・バンド演奏・歌謡演舞・模擬店・フリーマーケット等地域交流深まりました。将来の街おこし　ふる里づくりにとご努力頂きました。

第四委員会は、「祝地下鉄開通記念マップ」を５，０００部作成して、各方面に配布しました。（同志会・関係各庁・商業振興会・イベント会場・関連駅等）
マップは港北ＮＴ関連駅４駅（東山田、北山田、センター北、センター南）名所、史跡、施設等の紹介で将来地域外の人達がグリーンラインを利用して訪れる事を願っての街おこし、活性化に向けた取り組みでした。

又非営利法人港北ＮＴ記念協会より写真で見る「つづきの景観５０選」を記念事業として発行して頂きました。
理想として掲げた港北ＮＴ街づくり「誰もが住みたくなる街」が熟成していく姿が伺えます。合わせて街おこしにつなげたい

3　会場写真

式典会場写真

男全 冨雄　主催者挨拶
祝典・祝賀会実行委員会委員長
（大嶋 珪治 事務局長）

金子　保　主催者挨拶
祝典・祝賀会実行委員会名誉会長

来賓挨拶 大槻 哲夫 都筑区長

来賓挨拶 栗原　靖 都筑連合町内会自治会長

記念植樹　北山田駅

祝賀会

閉会挨拶 栗原　毅 実行委員会副委員長